

かごしまの農業 2023



鹿児島黒牛 和牛の頂きへ

特別区 高校及び農業大学校

第8区 去勢肥育牛【最優秀枝肉賞】

第5区 高等登録群、第6区 総合評価群、

第1区 若雄、第4区 繁殖雌牛群、

農林水産大臣賞 受賞

第4区 繁殖雌牛群

内閣総理大臣賞 受賞

第12回 全国和牛能力共進会

頂点
鹿児島黒牛
黒毛和種



令和5年3月
鹿児島県農政部

目次

I 主要施策の概要

★ 生産資材価格高騰への対応……………	1	4 農地利用, 基盤整備等……………	7
1 生産振興, 販売・流通等……………	2	5 生産性向上……………	8
2 安全で安心な農畜産物の安定供給…	5	6 農村振興……………	10
3 担い手確保・育成……………	6	7 農業災害防止等……………	11
		8 食育及び地産地消……………	12

II 本県の地理

1 位置……………	13
2 地勢……………	13
3 気象……………	13

III 農業の概要

1 概要……………	14	3 農用地……………	21
(1) 全国における本県農業の地位		(1) 耕地面積	
(2) 農業産出額		(2) 農業経営体数と1経営体当たり経営耕地面積	
(3) 生産農業所得		(3) 耕地利用率	
(4) 県内経済における農業の地位		(4) 荒廃農地	
2 農業者……………	17	(5) 農地流動化	
(1) 個人経営体数		(6) 農業農村整備	
(2) 基幹的農業従事者		4 流通・販売……………	24
(3) 担い手		(1) 農畜産物の輸出	
(4) 新規就農者		(2) 6次産業化の市場規模	
(5) 企業等の農業参入		(3) 食品製造業の出荷額	
(6) 女性農業者		(4) かごしまの農林水産物認証制度 (K-GAP)	
		5 農業災害……………	26
		(1) 農業保険 (農業共済, 収入保険)	
		(2) 鳥獣被害額	

IV 品目別の生産動向

1 生産状況……………	27	(7) 茶……………	34
2 最近の情勢と今後の推進方向		(8) 葉たばこ……………	35
(1) 米……………	28	(9) 肉用牛……………	36
(2) さつまいも……………	29	(10) 乳用牛……………	37
(3) 野菜……………	30	(11) 豚……………	38
(4) 果樹……………	31	(12) 採卵鶏……………	39
(5) 花き……………	32	(13) 肉用鶏……………	40
(6) さとうきび……………	33		

V 作物カレンダー

作物カレンダー……………	41
--------------	----

VI 農政の推進体制

1 農政部予算……………	44
2 農政部機構図……………	45

I 主要施策の概要

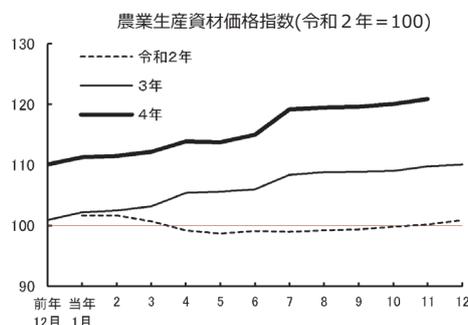
★生産資材価格高騰への対応

世界的な物流の混乱やロシアによるウクライナ侵攻、円安等に伴う燃油・肥料・飼料などの生産資材価格の高騰により、農業生産の現場では多くの生産者が厳しい状況に直面。

国及び県においては、生産資材価格の高騰による農業分野への影響を抑え、農家の経営安定を図るため、各種支援策を措置。

〈生産資材価格の動向〉

農業者が購入する農業生産資材価格の指数である農業生産資材価格指数は、令和4年は、飼料、肥料等の価格が上昇したことにより、上昇。



〈経営支援対策〉

令和4年5月24日に、各地域振興局・支庁に窓口を設置し、農業者からの生産資材の価格高騰に対する相談に対応。(相談件数：82件、(燃油32件、飼料103件、247件)令和4年12月末現在)

〈各種支援策〉

国は令和4年4月、直面する物価高騰による影響を緩和するため、「原油価格・物価高騰等総合緊急対策」を措置。また、同年7月には「肥料価格高騰対策事業」により、肥料コスト増加分の7割を支援する施策を、9月には配合飼料の価格高騰対策として、令和4年度10-12月期の実質的な飼料コストを7-9月期と同水準にする追加策を措置。

県は、燃油については、国のセーフティネット事業への加入時に負担する経費の一部や、ヒートポンプなど省エネ機器等の導入支援、肥料については、肥料コスト上昇分の7割を支援する国の措置に合わせて、肥料コスト上昇分の一部支援、配合飼料については、国の配合飼料価格安定制度に加入している生産者の負担経費の一部を支援。

また、農業用ビニール資材についても、価格上昇分の一部を支援。

資材名	支援内容	事業名	事業内容
燃油	燃油価格の高騰に対する影響緩和対策	施設園芸セーフティネット構築事業【国】	国と農業者が1対1で積み立てた資金から、燃油の全国平均価格と発動基準価格との差額を補填
		茶セーフティネット構築事業【国】	茶工場及び施設園芸農家が、国のセーフティネット構築事業への加入時に負担する積立金の一部を支援
	省エネ機器等の導入支援	産地生産基盤パワーアップ事業【国】	施設園芸等で使用されるA重油等の価格が高騰している状況を踏まえ、ヒートポンプ等の省エネ機器・設備の導入等を支援
		茶・薬用作物等地域特産作物体制強化促進事業【国】	茶加工のエネルギーコスト削減に資する機械のリース導入を支援
		燃油等高騰対策機械導入緊急支援事業【県】	燃料費及び肥料費が増加し、経営に影響を受けている農業者に対し、経費削減につながる省エネ機器、機械の導入を支援。(ただし、国庫補助事業の対象とならない場合に限る)
肥料	肥料コスト低減体系への転換を支援	肥料コスト低減体系緊急転換事業【国】	慣行の施肥体系から肥料コスト低減体系への転換を進める取組として、土壌診断や肥料コスト低減に資する技術の導入等を支援
		肥料価格高騰対策事業【国】	肥料価格の高騰による農家経営への影響を緩和するため、化学肥料の2割低減の取組を行う農業者に対して肥料コスト上昇分の7割を支援
		化学肥料低減化推進事業【県】	土壌診断に基づく化学肥料の使用量の削減に向けて、高速で診断できる機器の整備や、良質堆肥の生産支援に向けた機器の整備や施肥法の開発
		肥料価格高騰緊急支援事業【県】	肥料価格の高騰による農業経営への影響を緩和するため、化学肥料使用量の低減に取り組む農業者に対して、国の肥料価格高騰対策事業と協働し、肥料コスト上昇分の一部を支援
飼料	配合飼料の価格高騰対策	配合飼料価格安定制度【国】	配合飼料価格の上昇が畜産経営に及ぼす影響を緩和するため、「通常補填」と「異常補填」の二段階の仕組みにより、生産者に対して補填
		配合飼料価格高騰対策緊急支援事業【県】	配合飼料価格安定制度に加入している生産者積立金の一部について支援
農業用ビニール資材	農業用ビニール資材の価格上昇分の一部を支援	被覆資材価格高騰対策緊急支援事業【県】	原油高騰の影響により価格が上昇している農業用ビニール資材の価格上昇分の一部を支援

1 生産振興、販売・流通等

〈かごしまブランドの確立等〉

かごしまの強みをしっかり生かせる農畜産物を「かごしまブランド産品」として指定し、これらの産地づくりと販売促進活動を展開しています。

なお、一定の基準を満たした生産者団体等を「かごしまブランド団体」として認定しています。

令和5年1月末現在、168団体が、「かごしまブランド団体」に認定されています。

和牛日本一に輝いた鹿児島黒牛など「かごしまブランド産品」を中心に、大消費地の量販店等でのPRや知事トップセールスの実施、鹿児島黒牛・かごしま黒豚販売指定店、かごしま茶販売協力店の拡大など、県内外での販売促進活動を展開しています。

また、県内で生産される高品質で希少性のある果物について、適正に評価される販路を開拓するため、生産者等が行う販売促進活動を支援しています。



かごしまブランドマーク



高級果物専門店での知事トップセールス



調理師専門学校での
かごしまの「食」発表会



かごしまの食ウェブサイトによる県内外への情報発信



かごしまの食ウェブサイト
<https://www.kagoshima-shoku.com/>

〈農畜産物の生産振興及び銘柄産地の育成〉

農林水産物・食品のうち、品質等の特性が産地と結びついており、名称が特定できる産品を、知的財産として国が保護する「地理的表示保護制度（GI制度）」を推進しています。

「鹿児島の壺造り黒酢」「桜島小みかん」「辺塚だいたい」「鹿児島黒牛」「えらぶゆり」「種子島安納いも」が登録されています。



〈農畜産物の輸出拡大等〉

日本一の生産量を誇り、第12回全国和牛能力共進会で日本一を獲得した鹿児島和牛やさつまいものほか、お茶やきんかんなど多くの農畜産物が、海外へ輸出されています。



県農林水産物輸出
統一ロゴマーク

国際水準GAPの取得支援など輸出に意欲的な農業者等への支援で生産体制を強化する取組と、県内輸出商社の海外営業活動への支援による県産農産物等の海外への販路開拓や、SNSを活用し、海外インフルエンサーを起用した県産品プロモーション、海外小売店等での鹿児島フェアや輸出商談会の開催等の販売力を強化する取組を行っています。

牛肉は、香港、台湾をはじめとするアジア諸国や米国、EUへの輸出が順調であり、県食肉輸出促進協議会を中心とした、食品展示会や商談会への参加、高級部位（ロース、ヒレ）以外の多様な部位の利用促進を図るためのカット技術の普及、「鹿児島和牛」を取り扱う販売指定店拡大の取組への支援とともに、「鹿児島和牛」ならではの魅力が詰まったPR動画を作成し、さらなるPRの強化に取り組んでまいります。



DON DON DONKIにおける
鹿児島フェアの開催（シンガポール）



輸出相手国での食品展示会における
「鹿児島和牛」PR



県食肉輸出促進協議会統一ロゴマーク
「鹿児島和牛」（左）、「かごしま黒豚」（右）



「鹿児島和牛」GIマーク



カットの技術の普及

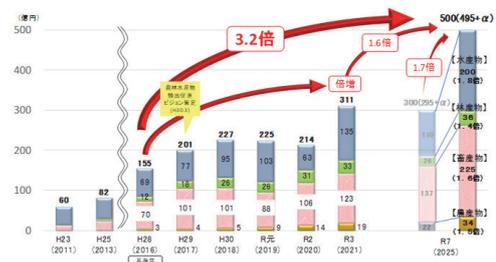
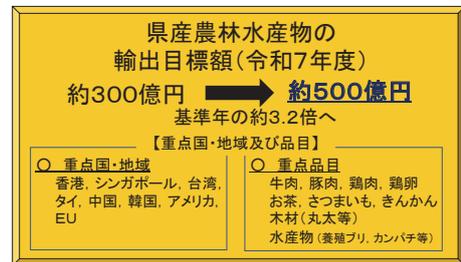
県農林水産物輸出促進ビジョンを改訂

〈県産農林水産物輸出額が過去最高を記録〉

県では、平成30年に県農林水産物輸出促進ビジョンを策定し、「つくる」「あつめる・はこぶ」「うる」の3つの視点から、農林水産物の輸出に係る生産体制と販売力の強化に取り組んでいます。

その結果、令和3年度の県産農林水産物の輸出額は、過去最高の約311億円となり、同ビジョンに掲げた輸出目標額約300億円（目標年度：令和7年度）を4年前倒しで達成しました。

目標額を達成したことから、令和4年度末に同ビジョンを改訂し、新たに輸出目標額を約500億円（令和7年度）に設定しました。新たな目標の達成に向けて、引き続きこれまでの取組を着実に進めることにより、県産農林水産物の更なる輸出拡大を図ります。



新たな輸出目標額約500億円の設定

〈6次産業化の推進〉

農林水産物の付加価値創出を通じて、農林漁業者の所得向上や雇用の確保など農山漁村の活性化を図るため、6次産業化を推進しています。

商品開発等に関する専門家の派遣や県内外で開催される商談会への出展、販売機会の提供など、伴走型の支援を展開しています。

また、大隅加工技術研究センターにおいて、リモートによる相談対応や加工技術の指導などを行っています。



専門家による相談対応



商談会への出展支援



リモートによる加工相談



加工技術の指導状況

第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会「和牛日本一」

「和牛新時代 地域かがやく和牛力」をテーマに、令和4年10月6日から10日までの5日間にわたり、「第12回全共鹿児島大会」が霧島市牧園町（種牛の部・高校及び農業大学校の部）と南九州市知覧町（肉牛の部）で開催されました。本県での全共は、第2回大会以来52年ぶり、全国初の2回目開催であり、過去最多となる41道府県から代表牛438頭を一堂に集め、和牛改良の成果を競う熱戦が繰り広げられました。大会期間中は県内外から30万8千人に会場いただき、鹿児島の「食」や「観光」などの本県の魅力を満喫いただきました。

本県から出品した「鹿児島黒牛」は、全9部門中6部門で首席（農林水産大臣賞）を獲得するとともに、「種牛の部」では、30年ぶりとなる内閣総理大臣賞を受賞したほか、「肉牛の部」（第8区）で前回に引き続き、最優秀枝肉賞を受賞するなど、「和牛日本一」の栄冠を獲得しました。

共進会と併せて開催された催事については、「和（わ）っ！と驚く美味さが牛（ぎゅ）っ！と詰まった 和牛の魅力を鹿児島から 和牛フェス2022」をテーマに掲げ、来場者に和牛の魅力を体感してもらえるよう、全国ブランド牛の試食をはじめ、楽しみながら和牛のことが学べる「かごうしまミュージアム」など、さまざまなブース・イベントも実施しました。

また、閉会式には、岸田内閣総理大臣が御臨席され、祝辞をいただくとともに、「内閣総理大臣賞」の賞状とトロフィーを直接、受賞者に授与いただきました。最後に、次回開催地である北海道知事が挨拶され、5日間の大会に幕を降ろしました。

今後とも、この「和牛日本一」の称号を前面に打ち出し、国内外に向けて積極的なPRに取り組み、更なる「鹿児島黒牛」の販路拡大につなげることをとしています。



「種牛の部」第4区
内閣総理大臣賞



「肉牛の部」枝肉審査・展示の状況



「和牛日本一」PR

2 安全で安心な農畜産物の安定供給

〈食の安全・安心対策〉

安心・安全な県産農林水産物を生産し、消費者からの信頼を確保するため、「かごしまの農林水産物認証制度（K-GAP）」の認証取得の促進や普及・拡大等に取り組むとともに、国際水準GAPの普及を図るため、GAP指導員の育成やGAP認証の取得支援などに取り組んでいます。

また、関係機関と連携しながら、食品表示制度の普及・啓発や食品表示実態調査を通じた小売業者等への指導などを実施し、県民の信頼を確保する食品表示の適正化に取り組んでいます。



K-GAP PRフェア



食品表示実態調査の状況

〈環境との調和に配慮した産地づくり等〉

環境と調和した産地づくりに向けて、健全な土づくりの推進と化学肥料・化学合成農薬の使用量の低減や農薬・肥料等の適正使用、バイオマスの利活用の促進、産地への啓発活動及び消費者への理解促進を積極的に推進しています。



土着天敵昆虫：テントウムシ



有機農業の取組面積及び農家戸数の推移

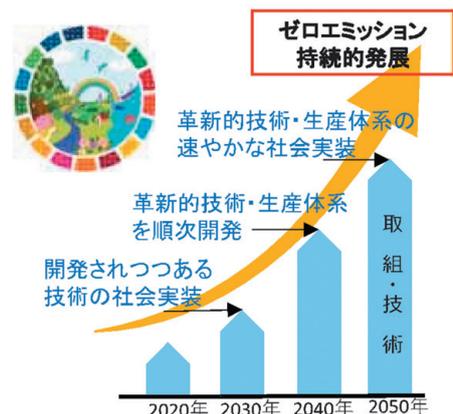
また、土着天敵昆虫等を利用する生物的防除を中心とした総合的病害虫・雑草管理（IPM）技術の普及を図るとともに、環境保全型農業直接支払制度を活用した有機農業団体等への支援や技術指導など、生産から販売まできめ細やかな支援を行い、有機農業を推進しています。

みどりの食料システム戦略

我が国の食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現させるため、農林水産省は令和3年5月に「みどりの食料システム戦略」を策定しました。

2050年までに目指す姿として、農林水産業のCO₂ゼロエミッション化の実現など14項目の目標を掲げ、その実現に向けて、調達から生産、加工・流通、消費までの各段階での課題の解決に向けた取組を進めることとしています。

令和4年7月にはみどりの食料システム法が施行され、本県においても、県内全市町村と共同して策定した基本計画に基づき、環境負荷低減事業活動の取組を推進することとしています。



3 担い手確保・育成

〈経営改善意欲のある農業者の確保・育成〉

効率的かつ安定的な経営の実現を目指す認定農業者などの担い手を確保・育成するため、農業経営の法人化など、担い手の経営発展につながる各種研修会の開催や専門家派遣による課題解決に向けた取組を推進しています。

また、農業の新たな担い手として、企業等の農業参入を促進するとともに、農福連携の推進や外国人材の安定的な受入に向けた環境整備など、多様な人材の確保に向けた取組を推進しています。



経営発展に向けた専門家派遣

〈新たに就農しようとする者の確保・育成〉

新規就農者を確保・育成するため、県内外での就農相談の実施、農業大学校での教育・研修、就農に向けた研修資金・経営開始資金の交付、就農後の機械・施設等導入の支援など、就農準備から経営安定まで総合的に支援しています。



農業青年のプロジェクト成果発表

〈女性農業者が能力を発揮できる環境整備〉

基幹的農業従事者の約4割を占める女性の活躍を推進するため、女性農業経営士の認定や海外農家体験研修等の実施によるリーダー育成、女性農業者グループ等の活動支援など、女性が地域農業の担い手として、能力発揮できる環境づくりを推進しています。



異業種と連携した商品開発の取組

〈集落営農の育成・活動促進等〉

集落営農の活動を促進するため、小規模な農業者や高齢農業者も含めた地域の話合い活動に基づき、ビジョンづくりや人材の確保、収益力向上に向けた新規品目の導入、効率的な生産体制の確立に向けた取組などを推進しています。



集落営農研修会の開催

4 農地利用，基盤整備等

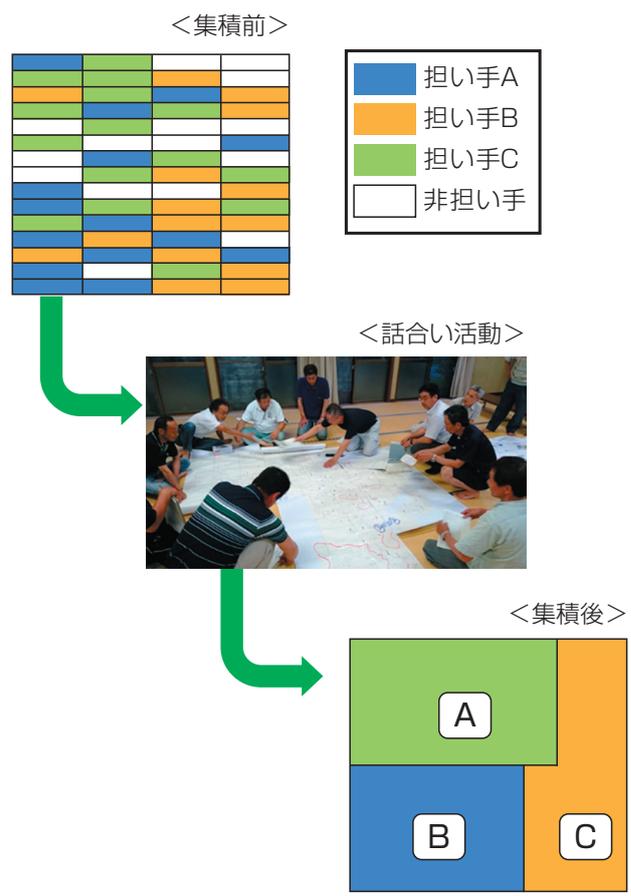
〈農地利用〉

農地の効率的な利用を推進し，農業生産力の維持向上を図るため，農地中間管理機構や市町村，農業委員会等と一体となって，農地利用の意向把握や，地域計画の策定の話合い活動，基盤整備の取組などと連携した農地中間管理事業の推進による担い手への農地の集積・集約に取り組んでいます。

〈基盤整備等〉

農業の競争力強化や農地の集積・集約化を図るため，農地の大区画化・水田の汎用化，ほ場や畑地かんがい施設の整備などを推進しています。

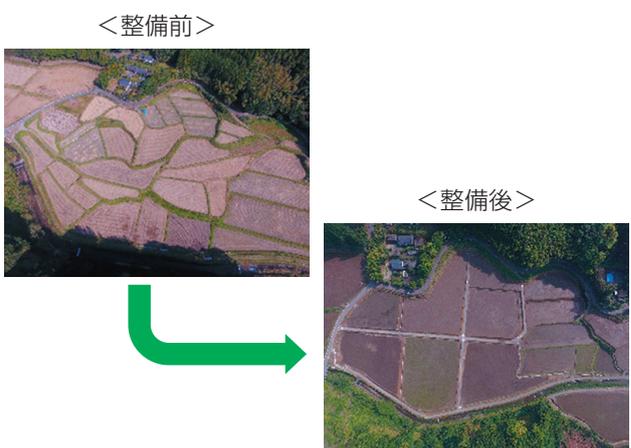
これまでに造成された土地改良施設の機能を今後も持続的に発揮させるため，施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減を図るストックマネジメントに取り組んでいます。



担い手への農地の集積・集約化（イメージ）



畑地かんがい施設による散水状況



ほ場整備による農地集積



〈補修前〉



〈補修後〉



老朽化したポンプの補修



水田の汎用化を図る暗渠排水の施工

5 生産性向上

〈スマート農業の推進〉

「スマート農業」とは、ロボット技術やAI、ICT等を活用して、超省力・高品質生産を可能とする新たな農業のことです。

スマート農業の推進は、本県農業が抱える労働力不足や、農業後継者への技術継承等の課題を解決するためにも有効な施策であることから、「鹿児島県スマート農業推進方針」(H31.3月策定)に基づき、農業者の理解促進や現地実証活動等を展開しています。

また、令和4年4月に県農業開発総合センター内に「スマート農業拠点施設」を整備し、本県に適したスマート農業の推進母体として稼働しています。



スマート農業拠点施設

〈農業技術の開発等〉

農業開発総合センターでは、新技術及び新品種・種畜の開発・普及に取り組んでいます。

最近の成果としましては、パッションフルーツの新技術として、「つり上げ仕立て法」を開発しました。収量は従来の仕立て法の約1.5倍となり、商品性の高い果実割合が向上します。生産量の向上により、所得向上や新規就農者の参入促進が期待されます。

また、有機液肥や天敵類活用技術の開発、野菜や果樹等の有機栽培技術等の研究成果を基に、「有機農業の技術マニュアル」を作成しました。本マニュアルの活用により、本県の有機農業の更なる発展が期待されます。

肉用牛改良研究所で造成した「白浜喜」号は、第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会で優等賞1席(農林水産大臣賞)を獲得した種雄牛です。肉改研からの出品牛は2大会連続の最高位獲得となりました。

肉用牛の改良等の研究を通じ、和牛日本一に輝く、「鹿児島黒牛」の産地育成にこれからも貢献していきます。



パッションフルーツ新技術「つり上げ仕立て法」

有機農業の技術マニュアル



「白浜喜(しらはまよし)」号

県育成品種「咲八姫」フラワー・オブ・ザ・イヤー受賞

本県育成のテッポウユリ品種「咲八姫」が、ジャパンフラワーセレクション「切花部門」の中で、最も優れた品種に授与される日本フラワー・オブ・ザ・イヤー2022を受賞しました。

ジャパンフラワーセレクションとは、「いい花の新基準。」を合言葉に、国内外の花きの新品種の中から、消費者に本当に推奨できる品種を選定する審査会です。

「咲八姫」はテッポウユリ初の八重咲き品種で、これまでになかったイノベーティブ(革新的)なテッポウユリとして評価されました。花持ちが非常に良く、上向きに咲き、立ち葉で容姿が美しい品種です。



咲八姫(さくやひめ)

〈動植物の防疫体制〉

本県は、農作物に甚大な被害を与えるミカンコミバエやアリモドキゾウムシなどの病害虫が侵入・発生しやすい地理的条件にあることから、国や関係機関・団体等と連携しながら、定期的なトラップ調査等による侵入防止対策を講じるとともに、万一、侵入を確認した場合には、まん延防止に向けた防除対策を実施しています。

国内において豚熱、高病原性鳥インフルエンザ、近隣諸国においてアフリカ豚熱等の家畜伝染病が続発し、本県においても令和2年度から令和4年度にかけて、3シーズン連続で高病原性鳥インフルエンザが発生しております。

特に、令和4年度は、県内において過去最大規模となる13例が確認され、殺処分対象は約137万羽となりました。

県では、飼養衛生管理基準の遵守の徹底を図るとともに、万一の発生に備え、防疫資材の備蓄や防疫演習を実施するなど、疾病の発生やまん延防止対策の取組を推進しています。



ミカンコミバエ



防疫演習

サツマイモ基腐病対策の取組

県では、県サツマイモ基腐病対策プロジェクトチームを設置（R4.1）し、「鹿児島県サツマイモ基腐病対策アクションプログラム」に基づき、関係機関・団体一体となって、「ほ場に菌を「持ち込まない」「増やさない」「残さない」対策の総合的な取組を推進しています。

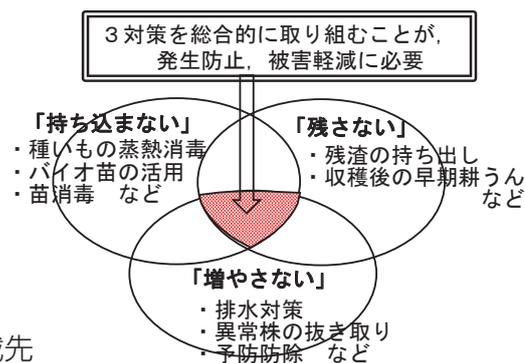
また、県内各地域のプロジェクトチームでは生産者への研修会の開催や個別巡回指導等による防除技術の周知に取り組んでいます。

農業開発総合センターでは、国等との共同研究により、基腐病の発生メカニズムの解明、抵抗性品種と農薬、ドローンを組み合わせた省力総合防除体系の開発などに取り組んでいます。

対策のパンフレット等は、関係機関・団体への配布、県のホームページに掲載し、情報発信に取り組んでいます。



基腐病防除に係るドローン研修会



「サツマイモ基腐病対策に関する情報」掲載先

<https://www.pref.kagoshima.jp/sangyo-rodonoogyo/index.html>

6 農村振興

〈共生・協働の農村づくり運動〉

「人と自然と地域が支え合うみんなで創る農村社会」を目指して、地域住民の自主的な話し合い活動を基本に、農村集落と大学やNPOなど地域外の多様な主体との連携による「共生・協働の農村づくり運動」を進めています。

令和3年度 共生・協働の農村づくり運動表彰 知事賞受賞団体

部 門	受 賞 者 名
農村集落部門	秋幾農業創生塾(龍郷町)
功労者部門	中間 幸敏 氏(南九州市)
功労者部門	米森 十一 氏(さつま町)
支援団体部門	たかせ 竹子っ好調会(霧島市)

令和4年度豊かなむらづくり全国表彰事業「農林水産大臣賞」受賞 荃永地区自治公民館（南種子町）

荃永地区自治公民館では、県内で先駆けて「耕畜連携による飼料用稲栽培」のしくみを構築し、町内の飼料用稲の栽培拡大と畜産業の振興に寄与してきました。

また「宇宙留学」を通じた都市住民との交流により、移住・定住を促進するとともに、古代米「赤米」伝承の地として、赤米御田植祭や収穫祭など地区全体で伝統神事を継承する取組を行い、住民の創意工夫による持続的なむらづくり活動を展開しています。



300年以上の歴史を誇る
「宝満神社の赤米御田植祭」

〈農業農村の有する多面的機能の維持・発揮〉

農業農村の有する国土の保全や良好な景観の形成等の多面的機能の維持・発揮を図るため、地域共同で行う多面的機能を支える活動や農地・水路・農道等の地域資源の質的向上を図る活動を支援しています。



共同活動により保全管理された水路

〈グリーン・ツーリズム、農泊の推進〉

本県の豊かな農産物や食、伝統文化、自然などを生かして、農産物直売所等を活用した都市住民との交流、農作業等を体験する修学旅行の受入れなどグリーン・ツーリズムを推進しています。

また、農家民宿等に滞在しながら、農山漁村の魅力を味わってもらう「農泊」を持続的なビジネスとして実施できる体制づくりの普及啓発に取り組んでいます。



農泊シンポジウムの開催

7 農業災害防止等

〈農業災害対策の推進〉

本県では、台風や寒波等により、毎年、農作物やハウス等の農業施設などに被害が発生しています。

災害の発生が懸念される場合は、農業者に事前に対策を周知するなど、被害の発生や拡大を防止しています。

災害が発生した際は、相談窓口を設置するなどして、技術指導や復旧資金に関する相談等の対応を行っています。



台風により損壊したハウス

また、シラスなどの特殊土壌に覆われているため、台風や豪雨による災害を受けやすい条件下にあります。

このため、農地の侵食や崩壊を未然に防止するための排水路整備など、農村地域の防災・減災対策を行っています。



<整備前>



<整備後>

〈活動火山防災営農対策の推進〉

桜島などの活動火山を有する本県では、降灰による農作物被害を防止・軽減し、地域農業の発展を図るため、被覆施設や洗浄施設の整備等を行う農業者団体等を支援しています。



茶の除灰機



被覆施設

〈鳥獣被害防止対策の推進〉

市町村等と連携しながら、「寄せ付けない」、「侵入を防止する」、「個体数を減らす」の3つの取組を柱に、集落ぐるみの被害防止研修会の開催や侵入防止柵の整備、捕獲活動に必要な経費の支援などハード、ソフト面にわたる総合的かつ一体的な対策を強化しています。



侵入防止柵の整備



集落ぐるみの被害防止研修会

また、捕獲した鳥獣のジビエ利活用拡大に向けた取組を推進しています。

8 食育及び地産地消

〈食育〉

本県ならではの豊かな食文化や農林水産業を生かして、かごしま版食事バランスガイドの普及啓発や、郷土料理等の継承推進、農業体験等の取組への支援など、ライフステージに合わせた、県民の健康で豊かな食生活の実現を図っています。

また、子どもたちに対する体験活動を通じた食育を促進するために、食育に携わる指導者を対象に「食と農の指導者研修」を実施しています。



食と農の指導者研修



市町村等の取組支援
(保育園での農業体験)

県と県教育委員会及びJAグループ鹿児島による 「食育に係る連携協定」を締結

令和4年8月に、小中学校における食育活動のより一層の推進を目指し、県と県教育委員会及びJAグループ鹿児島の3者で「食育に係る連携協定」を締結しました。

子どもたちに、農業・農村の役割、食の楽しさや大切さなどについて理解を促すため、3者で連携し、農業体験活動の推進、学校給食における地場産農畜産物の活用促進など、食育の取組をさらに充実・強化していくこととしています。



食育に係る連携協定調印式

〈地産地消〉

本県農林水産物を積極的に活用している飲食店・量販店等を登録する「かごしま地産地消推進店」や、地産地消の情報発信役である「地産地消推進サポーター」への情報発信等を通じて、県産農林水産物への理解促進を図っています。

さらに、高校生等を対象に、県産食材を活用したメニューコンテストを実施するとともに、企業等と連携し入賞作品の商品化・販売PRするフェアの開催やSNSでの発信など、若い世代をはじめとする幅広い県民への理解促進に取り組んでいます。

また、農産物に含まれる「栄養成分」等に注目し、生産者や関係者等への研修会の実施、情報提供など、県産農産物の高付加価値化に向けた取組を推進しています。



↑かごしま
地産地消推進店を
県HPで紹介



高校生を対象とした
県産食材活用
メニューコンテスト



コンテスト入賞作品を商品化・販売PRする↑
「かごしまおいしいものフェア」



かごしまおいしいものフェア
キックオフイベント



農産物の栄養機能等を生かした
高付加価値化に係る個別相談

II 本県の地理

1 位置

本県は、我が国の西南部、九州の南端に位置し、東西約270km、南北約600kmに広がり、総面積は9,187km²です。薩摩、大隅の二大半島からなる県本土と、甌島、種子島、屋久島、トカラ列島、奄美群島など200有余の島々からなっています。

2 地勢

本県は、薩摩、大隅の二大半島から主要部分をなし、この二大半島は相対して深く湾入りした鹿児島湾を抱き、海岸の屈曲が多く、加えて200有余の島々からなるため海岸線は2,643kmに及んでいます。

薩摩半島にあつては、紫尾山系が県の北部を東西に走り、大隅半島にあつては、高隈山系が鹿児島湾に沿って、国見山系が太平洋に沿ってそれぞれ南北に走り、これらの山系と霧島火山脈の活動によって生じた火山群を骨格にし、その周辺に火山噴火物であるシラス層の丘陵台地が広がっています。

河川は、県の北部には、源を熊本県白髪山に発し、東シナ海に流入する川内川、鹿児島湾に流入する天降川、南部には東シナ海に注ぐ万之瀬川、大隅方面には志布志（有明）湾に注ぐ菱田川等がありますが、川内川（延長137km）を除けばいずれもそのほとんどが50km未滿の短い河川です。

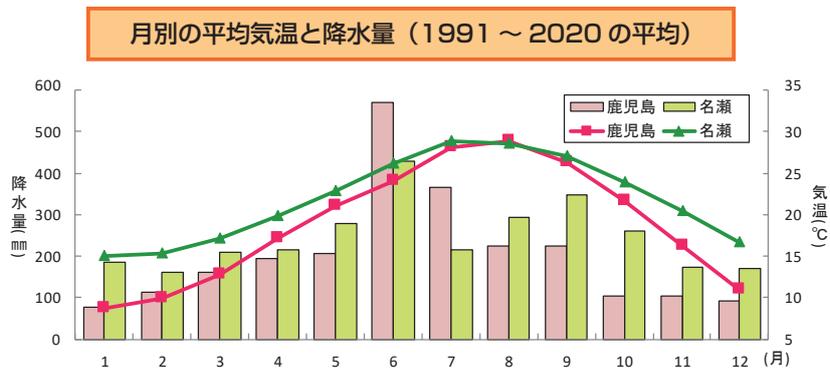
したがって、平野はこれらの河口付近にややまとまって見られるほかは、河川に沿って数珠状に細長く分布しています。

3 気象

本県は、温帯気候帯から亜熱帯気候帯まで広範囲に及んでおり、年平均気温は15℃から23℃まで、かなりの温度差があります。

降水量は地域によって相当の差があり、屋久島の山岳地帯では年間10,000mmを記録することも珍しくありませんが、概ね2,000mmから3,000mmの降雨地帯にあり、梅雨期から夏にかけて全降水量の約半分が集中しています。

夏秋期には、毎年のように暴風雨を伴う台風に見舞われ、また、夏期には干ばつ害を受けることもしばしばあります。



地点	年平均気温	年平均降水量	地点	梅雨入り	梅雨明け
鹿児島島	18.8℃	2,435mm	九州南部	5月30日ごろ	7月15日ごろ
名瀬	21.8℃	2,936mm	奄美地方	5月12日ごろ	6月29日ごろ

資料：気象庁「平年値（統計期間1991～2020年）」

Ⅲ 農業の概要

1 概要

農業は、本県の地域経済を支える基幹産業であり、令和3年における農業産出額は、全国第2位の4,997億円となっています。

特に、全国上位の飼養頭数を誇る豚や肉用牛（黒毛和種）を中心とした畜産は、農業産出額の約67%を占めています。また、南北600kmにわたる県土の中で、温暖な気候や全国第2位の広大な畑地などを生かした野菜や花き、茶などの生産も盛んです。

本県では、さらなる農業の発展のために、畑地かんがい農業などの農業生産基盤の整備や各種の生産対策を積極的に推進しています。

(1) 全国における本県農業の地位

区分	実数	全国に占める割合	全国における地位	九州における地位	資料
農業経営体数	29,717 経営体	2.8 %	12 位	2 位	農林水産省 「2020年農林業センサス」(確定値) (R2.2.1)
個人経営体数	28,276 経営体	2.7 %	12 位	2 位	
主業経営体数	8,781 経営体	3.8 %	6 位	2 位	
基幹的農業従事者数	37,580 人	2.8 %	16 位	3 位	
団体経営体数	1,441 経営体	3.8 %	3 位	1 位	
1経営体当たり経営耕地面積	2.4 ha	全国 3.1 ha	14 位	2 位	
耕地面積	111,800 ha	2.6 %	12 位	1 位	農林水産省 「耕地及び作付面積統計」 (R4.10.28)
田	34,700 ha	1.5 %	28 位	5 位	
畑	77,100 ha	3.9 %	2 位	1 位	
普通畑	61,700 ha	5.5 %	2 位	1 位	
樹園地	12,400 ha	4.8 %	7 位	2 位	
牧草地	2,960 ha	0.5 %	10 位	2 位	
畑地率	69.0 %	全国 45.6 %	6 位	1 位	
農業産出額	4,997 億円	5.6 %	2 位	1 位	農林水産省 「生産農業所得統計」 (R4.12.27)
生産農業所得	1,712 億円	5.1 %	2 位	1 位	
生産農業所得率	34.3 %	-	40 位	7 位	
食料自給率 (カロリーベース)	77 %	全国 37 %	8 位	2 位	農林水産省 (令和2年度概算値)

※「九州における地位」に沖縄県は含まない。

(2) 農業産出額

令和3年の農業産出額は、4,997億円（全国第2位）で、前年に比べて4.7%増加しています。部門別にみると、耕種が0.1%減少し、畜産が6.7%、加工農産物が25.7%増加しています。

また、部門別の構成比は、耕種31.6%、畜産66.6%、加工農産物1.8%となっています。

部門別農業産出額

区 分	産出額(億円)		構成比(%)		前年比(%)
	R3	R2	R3	R2	R3/R2
合 計	4,997	4,772	100.0	100.0	104.7
耕 種	1,580	1,582	31.6	33.2	99.9
米	176	208	3.5	4.4	84.6
麦 類	x	x	-	-	-
雑 穀・豆 類	3	2	0.1	0.0	150.0
い も 類	301	305	6.0	6.4	98.7
野 菜	545	562	10.9	11.8	97.0
果 実	105	98	2.1	2.1	107.1
花 き	118	113	2.4	2.4	104.4
工 芸 農 作 物	305	270	6.1	5.7	113.0
そ の 他	x	x	-	-	-
畜 産	3,329	3,120	66.6	65.4	106.7
肉 用 牛	1,240	1,151	24.8	24.1	107.7
乳 用 牛	103	106	2.1	2.2	97.2
豚	900	856	18.0	17.9	105.1
鶏	1,084	1,005	21.7	21.1	107.9
鶏 卵	316	273	6.3	5.7	115.8
ブロイラー	736	699	14.7	14.6	105.3
そ の 他	2	3	0.0	0.1	66.7
加 工 農 産 物	88	70	1.8	1.5	125.7

x: 集計結果をそのまま公表すると、個々の報告者の秘密が漏れるおそれがあるため秘匿とした箇所

資料: 生産農業所得統計

上位 10 品目 (令和3年度)

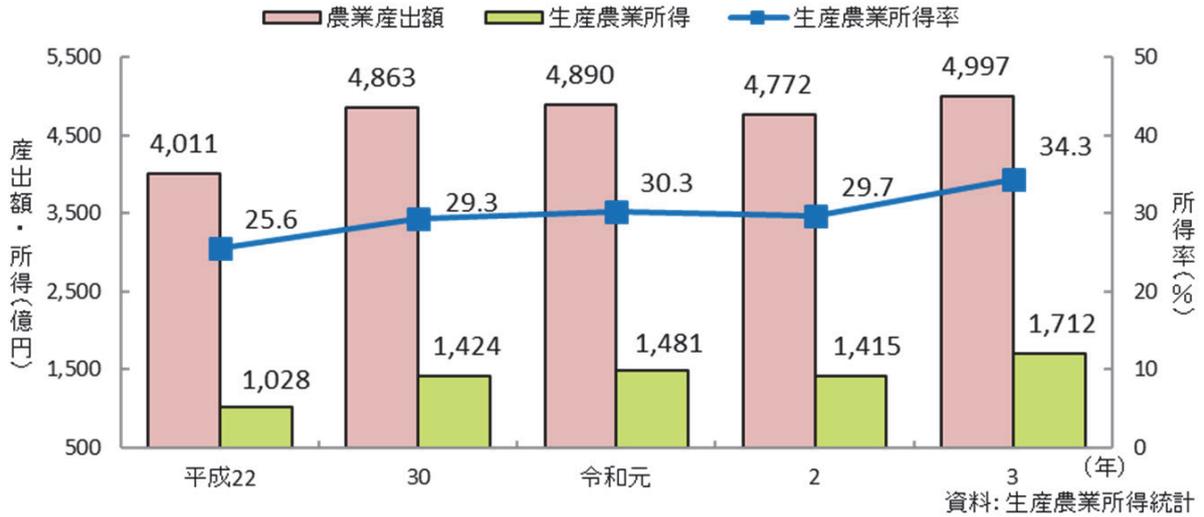
順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
品目	肉用牛	豚	ブロイラー	鶏卵	はれいしょ	米	茶(生葉)	さとうきび	かんしょ	生乳
産出額(億円)	1,240	900	736	316	184	176	152	130	118	88
構成比(%)	24.8	18.0	14.7	6.3	3.7	3.5	3.0	2.6	2.4	1.8

資料: 生産農業所得統計

(3) 生産農業所得

令和3年の生産農業所得は1,712億円で、前年に比べて21.0%増加しています。また、生産農業所得率は、34.3%で、前年に比べて4.6%増加しています。

農業産出額・生産農業所得・生産農業所得率の推移



(4) 県内経済における農業の地位

① 県内経済の状況

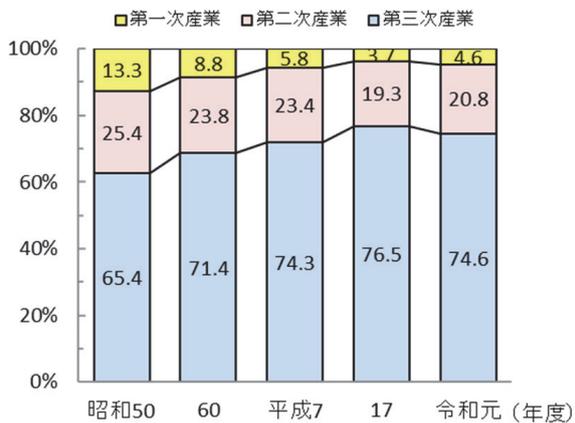
令和元年度の県内総生産額は5兆7,729億円となっています。

産業別にみると、第一次産業が4.6%、第二次産業が20.8%、第三次産業が74.6%となっています。

② 県内総生産に占める農業の割合

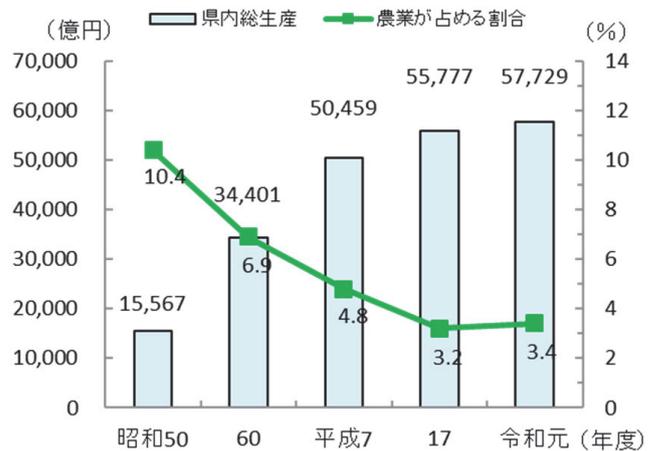
令和元年度の県内総生産額のうち、農業の生産額は1,970億円で、全体の3.4%を占めています。

県内総生産の構成比の推移



資料: 県民経済計算

県内総生産に占める農業の割合

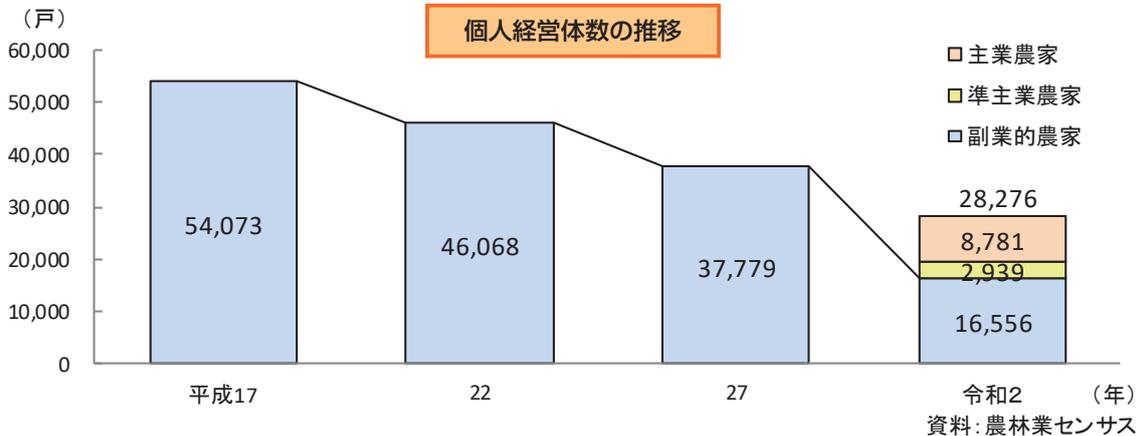


資料: 県民経済計算

2 農業者

(1) 個人経営体数

令和2年の個人経営体数は28,276戸で、平成27年に比べて25.2%減少しています。個人経営体のうち主業経営体は8,781戸（31.1%）、準主業経営体は2,939戸（10.4%）、副業的経営体は16,556戸（58.6%）となっており、全国（22.3%）に比べ主業農家の割合が高くなっています。

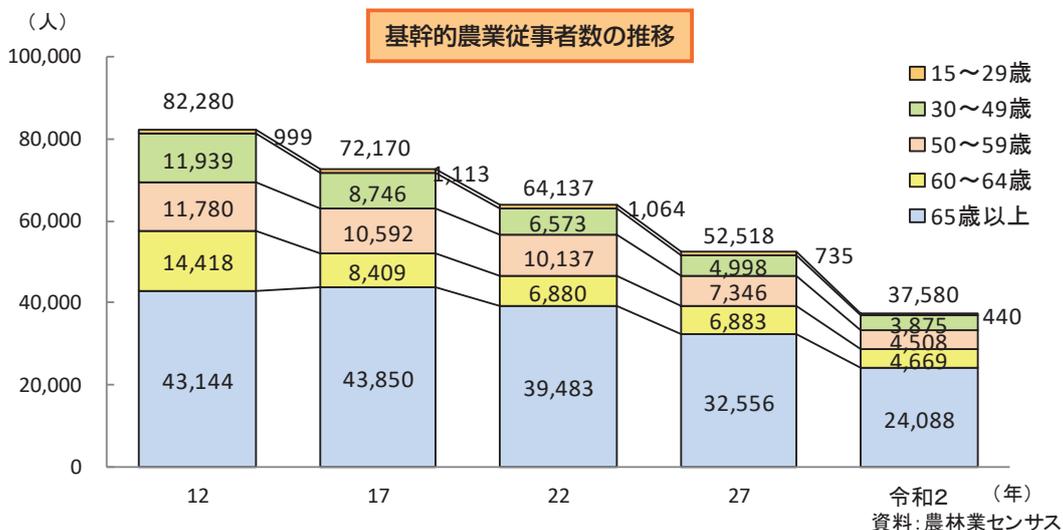


※「個人経営体」とは、農業経営体（経営耕地面積が30a以上又は1年間における農業生産物の総販売額が50万円に相当する事業の規模等を満たす経営体）のうち、一世帯で事業を行っている経営体（法人化している経営体（一戸一法人）を除く。）をいいます。
 ※「主業経営体」とは、農業所得が主（農家所得の50%以上が農業所得）で、1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる個人経営体をいいます。
 ※「準主業経営体」とは、農外所得が主（農家所得の50%未満が農業所得）で、1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる個人経営体をいいます。
 ※「副業的経営体」とは、1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいない個人経営体及び準主業経営体以外の個人経営体をいいます。

(2) 基幹的農業従事者数

基幹的農業従事者は、令和2年2月1日現在、37,580人で、平成27年に比べて28.4%の減少となっています。

このうち、65歳以上の数は24,088人で、全体の64.1%を占めており、60歳以上になると76.5%を占めています。



※「基幹的農業従事者」とは、農業就業人口（自営農業に主として従事した世帯員）のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者をいいます。
 ※平成27年までは販売農家の基幹的農業従事者数、令和2年は個人経営体の農業従事者数

(3) 担い手

担い手（認定農業者（法人を含む。）、認定新規就農者、集落営農経営等の今後の地域農業を担う者）は、11,093（令和3年度）であり、概ね10,000を維持しています。

担い手の確保数の推移

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度
担い手	10,782	11,101	11,093
○認定農業者	7,914	7,866	7,644
うち個人	6,688	6,613	6,379
うち法人	1,226	1,253	1,265
○認定新規就農者	563	532	511
○集落営農経営※1	33	31	30
○その他※2	2,272	2,672	2,908

資料：県経営技術課調べ

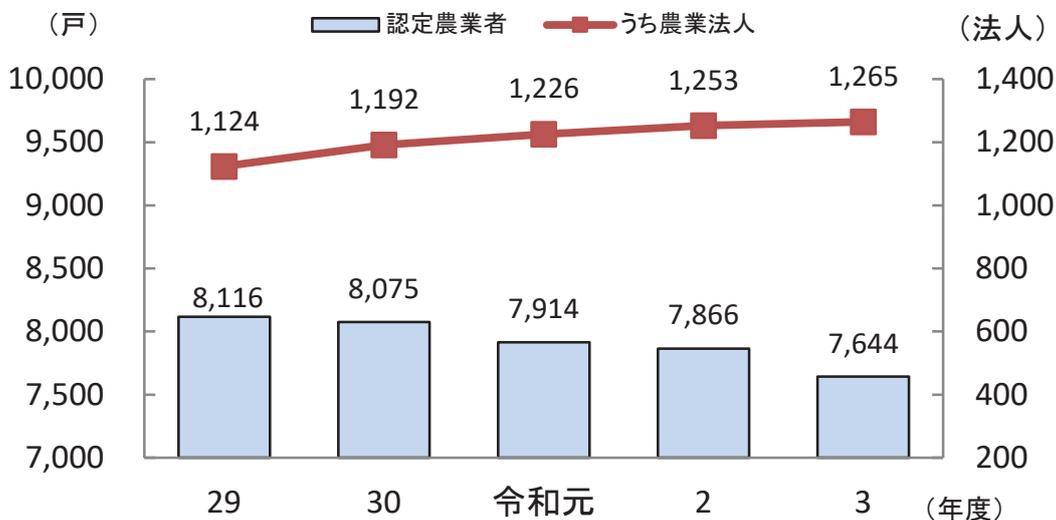
- ※1 認定農業者：市町村等から経営改善計画の認定を受けた経営体（県・国の広域認定分を含む）
- ※2 認定新規就農者：市町村から青年等就農計画の認定を受けた経営体
- ※3 集落営農経営：集落営農組織（複数の農業者により構成され、規約を定め、対象作物の生産・販売について共同販売経理を行う農作業受託組織）等
- ※4 その他：基本構想水準到達者（認定農業者の再認定を受けなかったものの、従前の経営面積を維持又は拡大している者等）

① 認定農業者（法人を含む）

個人の認定農業者は高齢化等により減少傾向にありますが、法人である認定農業者は1,265法人で、平成29年度に比べて13%増加しています。

認定農業者を営農類型別にみると、肉用牛1,614戸（21%）、野菜1,321戸（17%）、茶731戸（10%）（令和4年3月末現在）となっています。

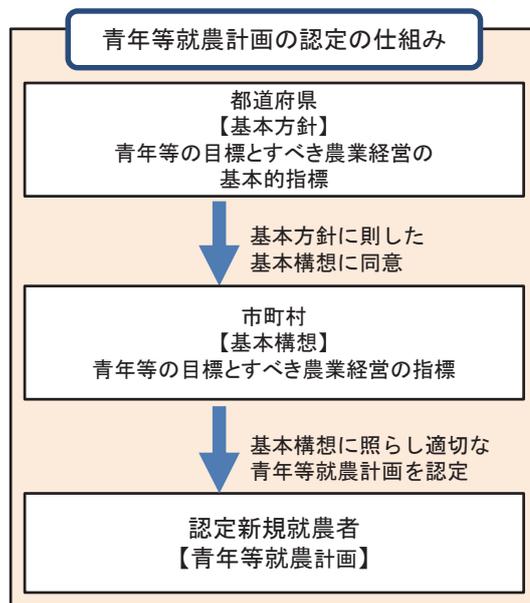
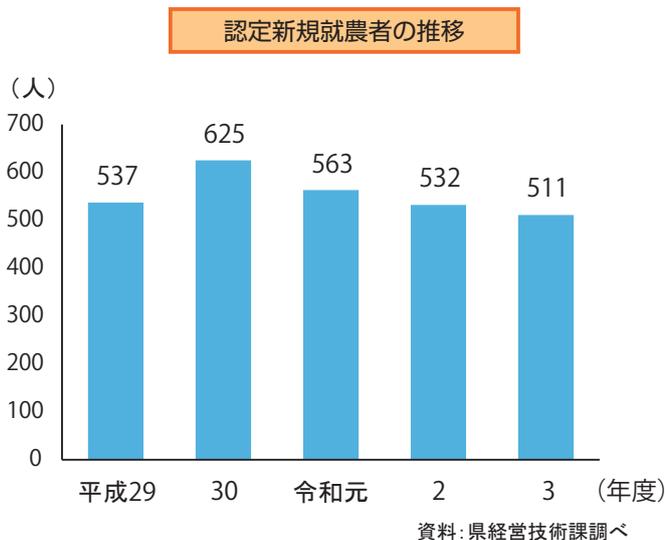
認定農業者の推移



資料：県経営技術課調べ

② 認定新規就農者

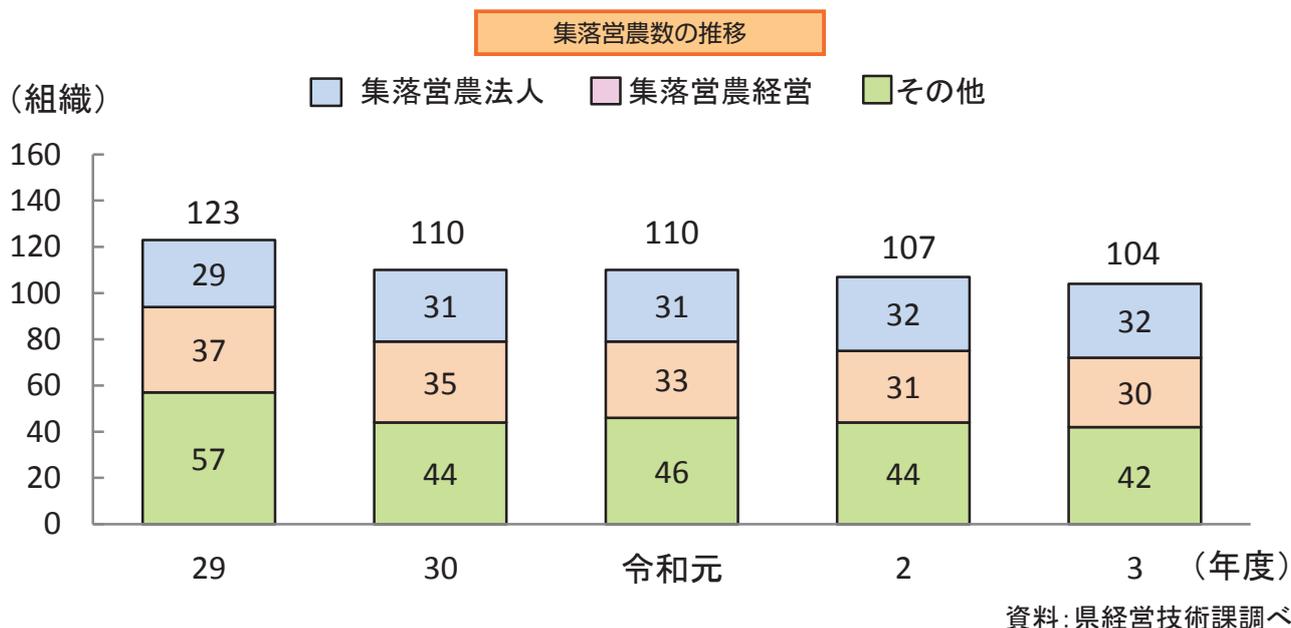
青年等就農計画を市町村が認定し、就農段階から農業経営の改善・発展段階まで、一貫した支援の対象となる認定新規就農者は、令和3年度は511人となっています。



③ 集落営農

地縁的なまとまりを単位として、話し合い活動に基づき、機械・施設の共同利用や農作業受託等の生産活動を行う集落営農は、高齢化等による農作業受託組合の解散などにより、令和3年度は104組織となっています。

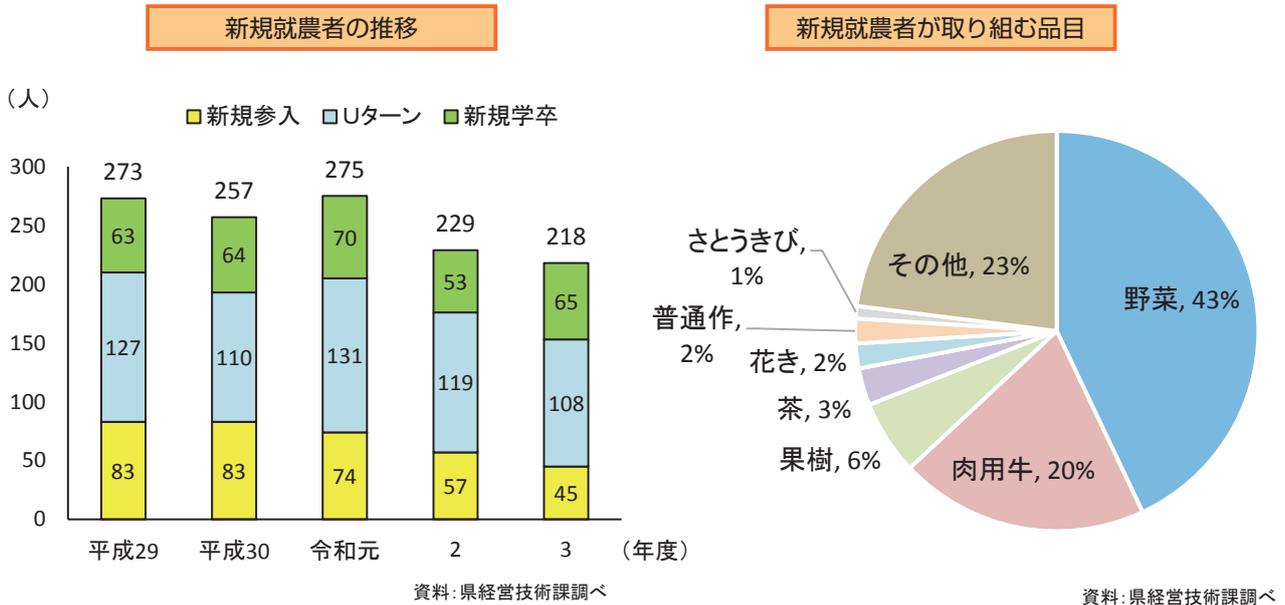
また、集落営農の中で規約を定め、共同で生産・販売経営等を行っている集落営農経営が30組織、さらに持続的な営農を可能とするため法人化まで行っている集落営農が32法人あります。



(4) 新規就農者

令和3年度の新規就農者は、218人となっています。

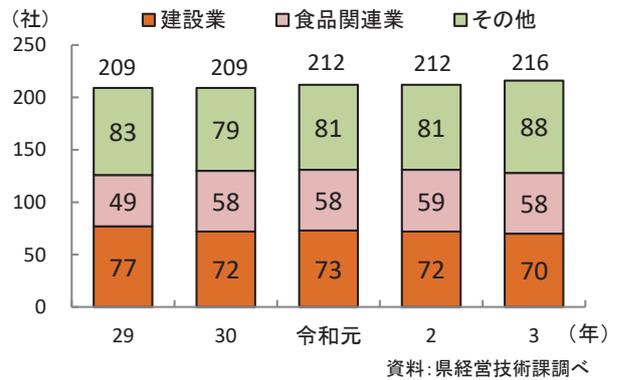
作目別では、野菜が最も多く、次いで、肉用牛、果樹の順になっています。



(5) 企業等の農業参入

農業参入した企業数等は年々増加傾向にあります。令和3年12月末時点では、前年に比べて4社増加の216社となっています。

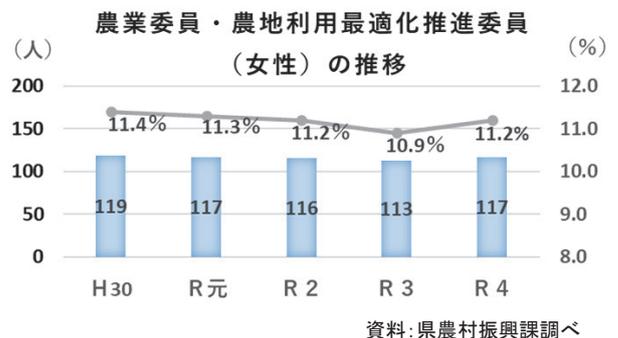
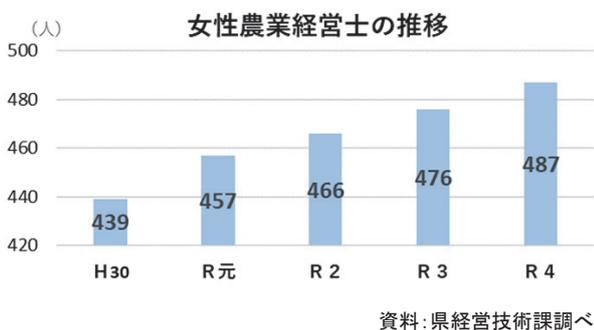
業種別には、建設業、食品関連業が多い状況です。



(6) 女性農業者

令和4年度の女性農業経営士の認定者数は487人となっています。

また、農業委員・農地利用最適化推進委員に占める女性の割合は11.2%となっています。



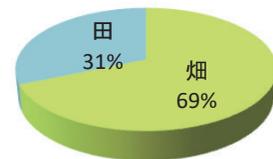
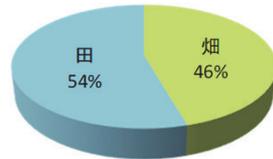
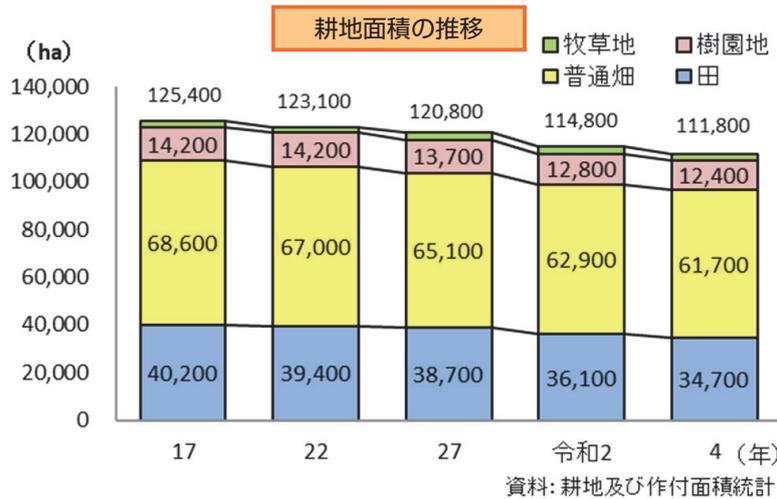
3 農用地

(1) 耕地面積

令和4年の耕地面積は111,800haで、うち田は、34,700ha、畑は、77,100haとなっています。

畑地率は、69.0%で、全国の畑地率45.6%に比べて、極めて高くなっています。

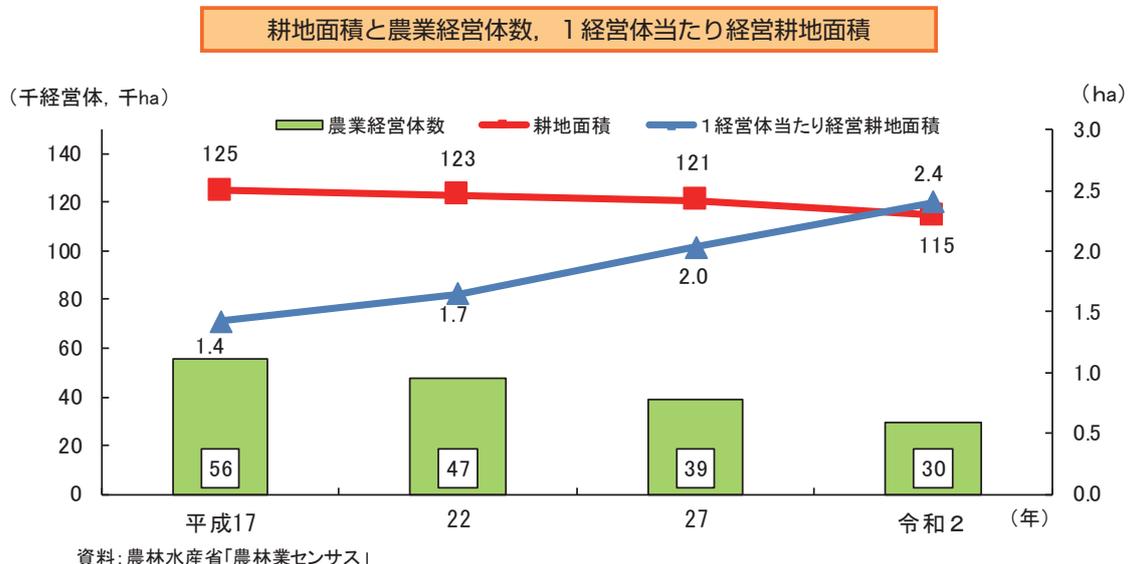
畑は、普通畑61,700ha（畑全体に占める割合80.0%）、樹園地12,400ha（同16.1%）、牧草地2,960ha（同3.8%）です。



資料：耕地及び作付面積統計

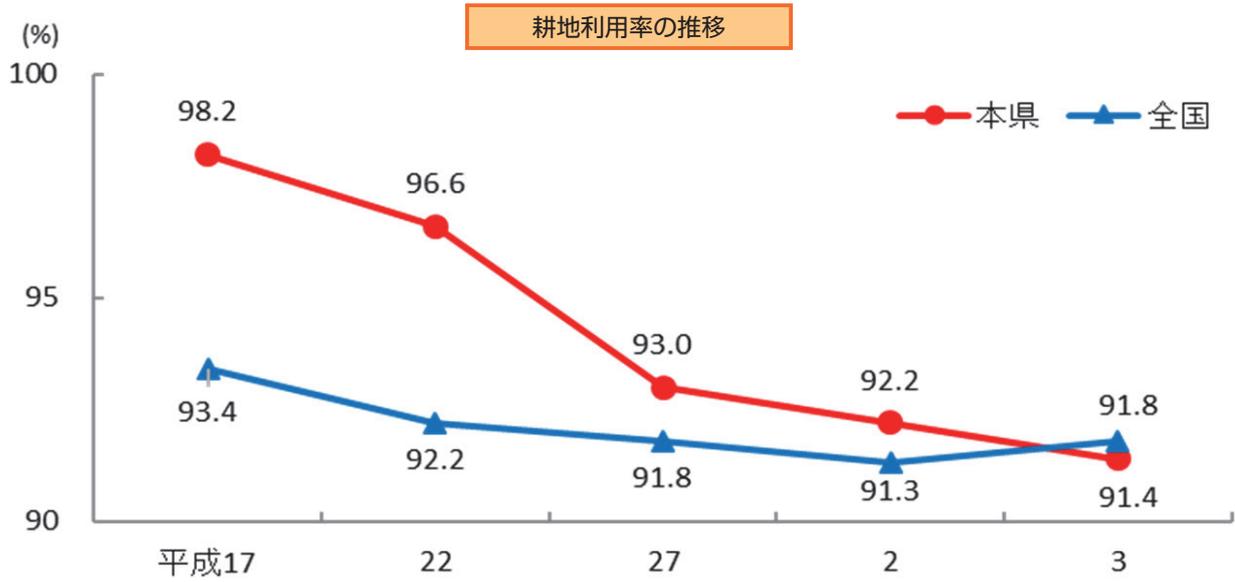
(2) 農業経営体数と1経営体当たり経営耕地面積

令和2年の農業経営体数は29,717戸、1経営体当たり経営耕地面積は2.4haとなっており、農業経営体数が減少する一方で、農地集積により、農業経営の規模の拡大が進んでいます。



(3) 耕地利用率

令和3年の耕地利用率は91.4%であり、全国の耕地利用率91.8%より低くなっています。

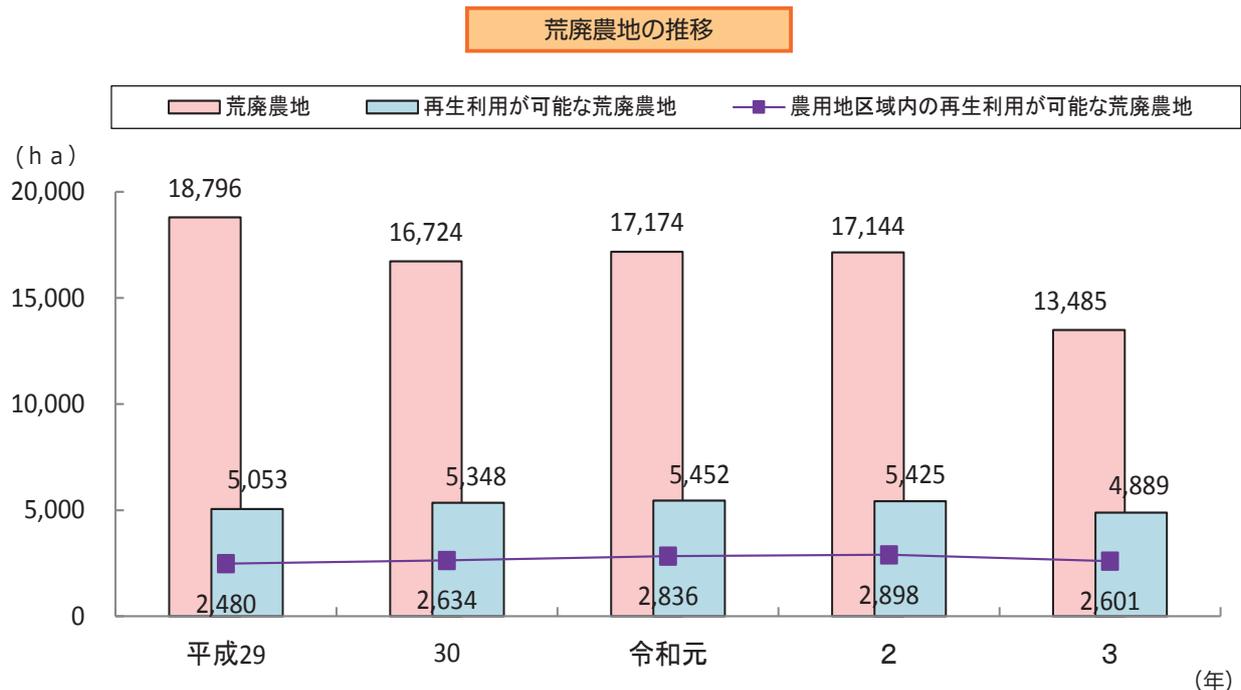


資料: 農作物作付(栽培)延べ面積及び耕地利用率

(4) 荒廃農地

令和3年の荒廃農地面積は13,485haで、直近5年間では減少傾向にあります。

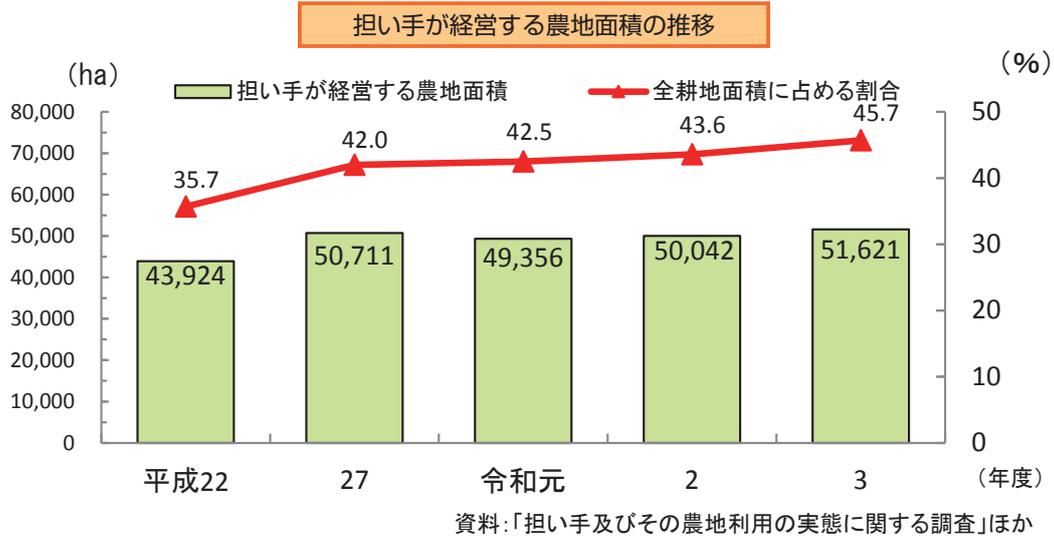
また、再生利用が可能な面積は4,889haで、このうち農業振興地域の農用地区域内の面積は2,601haとなっています。



資料: 「荒廃農地の発生・解消状況調査」, 「遊休農地に関する措置の状況に関する調査」

(5) 農地流動化

令和3年度末の担い手が経営する農地面積は、51,621haとなっており、全耕地面積に占める割合は45.7%で、平成22年度から10.0ポイント増加しています。



注：担い手とは、①認定農業者（特定農業法人を含む）、②市町村基本構想の水準到達者、③特定農業団体、④集落営農組織（複数の農業者により構成される農作業受託組織であり、対象作物の生産・販売について共同販売経理を行っている組織）、⑤認定新規就農者（H26～）をいう。

(6) 農業農村整備

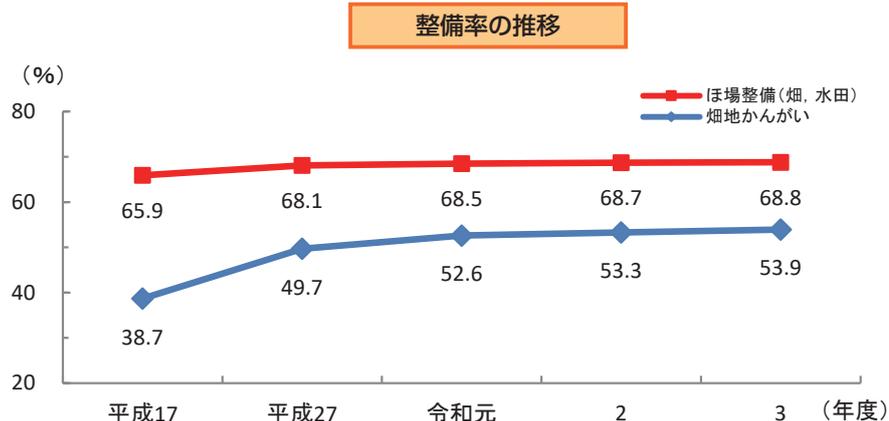
令和3年度末現在の整備率は、水田と畑を合わせた全体のほ場整備率68.8%、畑地かんがいは53.9%となっており、これらの生産基盤の整備を推進しています。

また、豪雨や地震等に対する防災・減災対策をはじめ、農業用施設の長寿命化対策や農村の生活環境の向上対策として、各種事業を積極的に推進しています。

農業農村整備事業の整備状況（令和3年度末現在）

項目	畑地かんがい	ほ場整備	水田		畑
				うち大区画	
整備目標量 (ha)	56,100	103,500	32,700	7,800	70,800
整備済量 (ha)	30,250	71,176	26,391	1,555	44,784
整備率 (%)	53.9	68.8	80.7	19.9	63.3

資料：農業農村整備事業における市町村別整備水準令和3年度調査結果

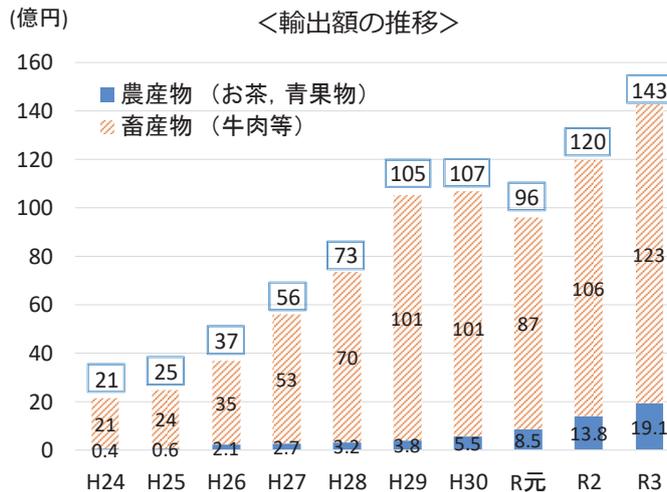


4 流通・販売

(1) 農畜産物の輸出

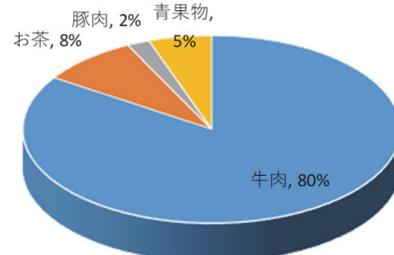
令和3年度の県産農畜産物の輸出額は約143億円で、その大部分を牛肉が占めており、香港や米国、台湾などに輸出されているほか、お茶はEUなどに、また、さつまいもやきんかんなどの青果物はシンガポールや香港、台湾などに輸出されています。

本県の農畜産物の輸出額

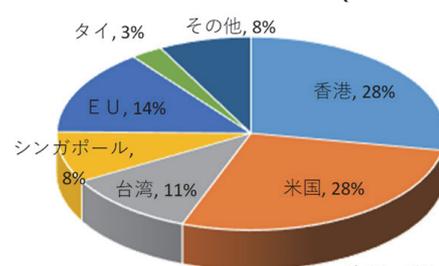


(注) 県産農畜産物の輸出を行っている団体等への聞き取り調査等を行い、回答があったものについて取りまとめたものであり、県産農畜産物の全ての輸出額ではない。

〈品目別の輸出額の割合 (令和3年度)〉



〈国・地域別の輸出額の割合 (令和3年度)〉

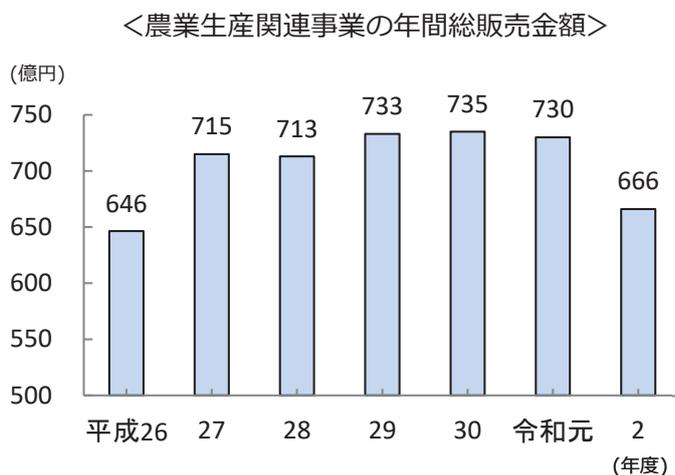


資料：鹿児島県調べ

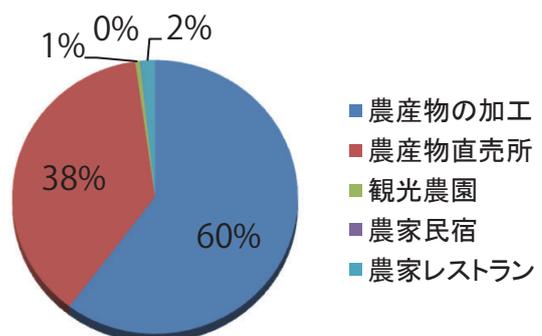
(2) 6次産業化の市場規模

令和2年度の農業生産関連事業の年間総販売金額は666億円で、そのうち農産物の加工が約6割を占めています。

本県の6次産業化の市場規模



〈業態別内訳〉



資料：農林水産省「6次産業化総合調査」

(3) 食品製造業の出荷額

本県の全製造業に占める食品製造業の出荷額の割合は、令和元年は42%と全国平均の約4倍であり、全国でも高い占有率となっています。事業所数や従業員数も全製造業の40%を超えており、農業振興への貢献とともに、地域に貴重な雇用機会を提供しています。

また、さつまいも等地域資源を活用した様々な加工食品が生産されています。

全製造業に占める食品製造業の割合（令和元年）

区分	食品製造業 (A)	全製造業 (B)	A/B (%)
事業所（箇所）	899	1,944	46.2
従業員（人）	28,854	69,563	41.5
本県出荷額等（億円）	8,405	19,940	42.2
全国出荷額等（億円）	362,208	3,225,334	11.2

資料：2020年工業統計調査

主要製造品の製造品出荷額等（令和元年）

順位	製造品名	出荷額等 (億円)	構成比 (%)
1	部分肉，冷凍肉	2,203	11.1
2	配合飼料	2,201	11.0
3	ブロイラー加工品	1,021	5.1
4	焼酎	901	4.5
5	他に分類されない電子部品・デバイス・電子回路	835	4.2

資料：2020年工業統計調査

(4) かごしまの農林水産物認証制度（K-GAP）

安心・安全な県産農林水産物を生産し、消費者からの信頼を確保するため、平成16年度に本県が創設した「かごしまの農林水産物認証制度（K-GAP）」の普及・拡大に取り組んでいます。

令和5年1月末現在の認証数は66品目、262団体・個人、311件となっています。

K-GAPの認証状況

区分	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
品目数	65	64	63	64	66
団体等数	270	270	272	264	262
件数	320	317	320	309	311
戸数	8,961	8,627	8,213	7,613	7,382

資料：県農政課かごしまの食ブランド推進室（令和5年1月末時点）

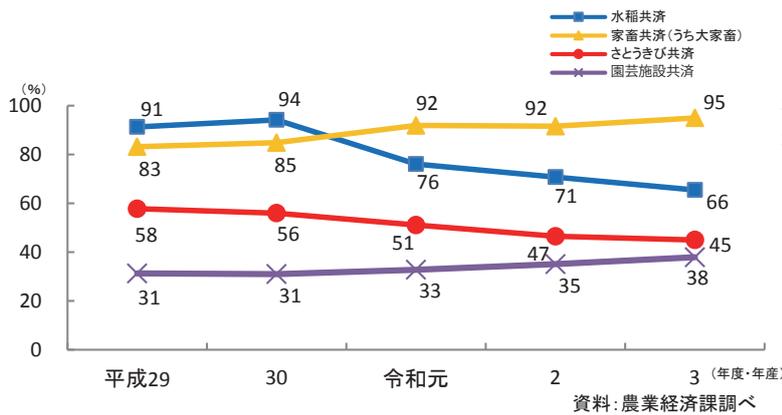
5 農業災害

(1) 農業保険（農業共済，収入保険）

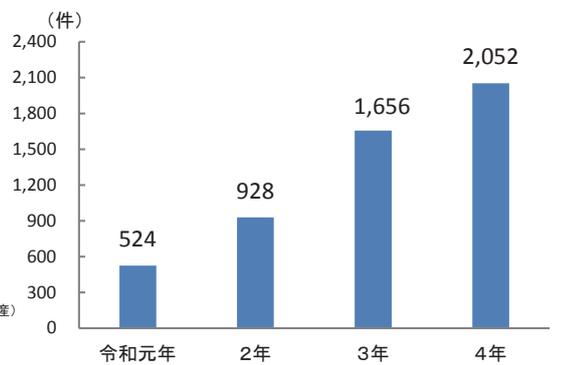
農業共済は，自然災害等によって受ける損失を補償する制度で，家畜共済（うち大家畜）や園芸施設共済は，加入率が上昇傾向にあります。

収入保険は，収量減少や価格低下などの様々ナリスクによる収入減少を補償しており，農業者が自ら生産した農産物の販売収入全体が対象です（肉用牛，豚肉，鶏卵を除く。）。収入保険への加入件数は，年々増加傾向にあります。（平成31年1月開始）

主な農業共済の加入率の推移



収入保険への加入件数の推移



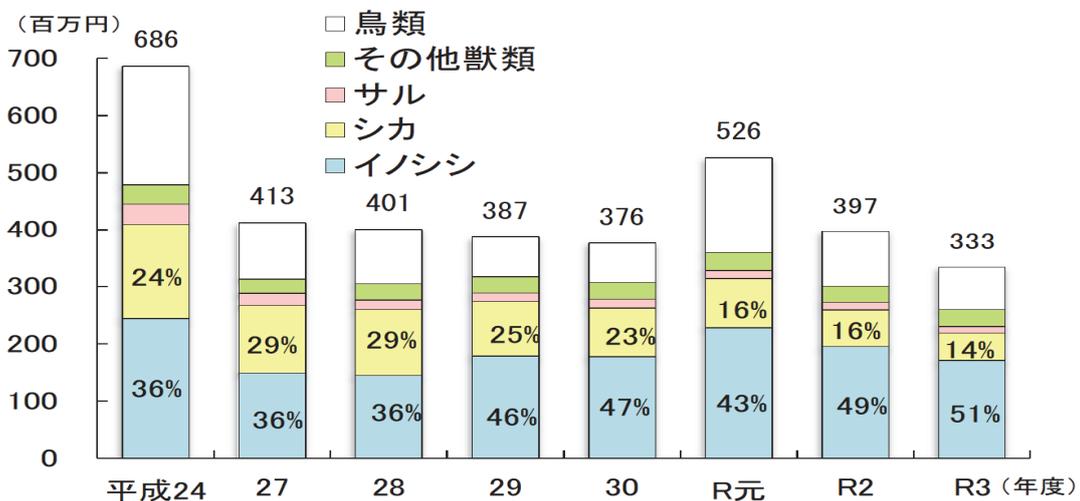
（注1）水稲共済は，令和元年産から当然加入制が廃止され任意加入制へ移行。
 （注2）家畜共済（うち大家畜）の令和元年度加入率は，旧制度及び現制度のうち死亡廃用共済の引受頭数を基に算出。

(2) 鳥獣被害額

令和3年度の野生鳥獣による農作物被害額は，イノシシやヒヨドリによる被害が減少したことから，前年度に比べて16%減の約3億3千3百万円となりました。

被害額のうち，イノシシとシカによるものが全体の約7割を占めています。

野生鳥獣による農作物被害額の推移



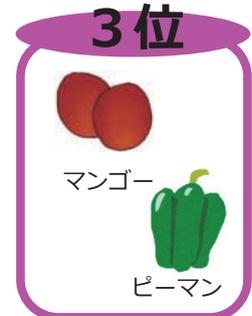
（注）平成24年度は，過去10年間で最も被害額が多かった年度

資料：県農村振興課調べ

IV 品目別の生産動向

1 生産状況

品目別の生産状況は、さつまいも、そらまめ、さやえんどう、球根類、豚などが全国第1位、茶（荒茶）、かぼちゃ、肉用牛などが全国第2位、マンゴーなどが全国第3位となっています。



品目	収穫量・ 飼養頭羽数	全国に占める 割合	全国における 地位	九州における 地位	資料
水稲	89,100 t	1.2 %	29 位	5 位	令和3年産作物統計
さつまいも	190,600 t	28.4 %	1 位	1 位	
さとうきび	543,700 t	40.0 %	2 位	1 位	
茶（荒茶）	26,500 t	33.9 %	2 位	1 位	
葉たばこ	927 t	6.5 %	7 位	4 位	全国たばこ耕作組合中央会 令和3年産
だいこん	92,500 t	7.4 %	4 位	1 位	令和3年産 作物統計
ばれいしょ	91,000 t	4.2 %	2 位	1 位	
さといも	7,250 t	5.1 %	6 位	2 位	
かぼちゃ	7,140 t	4.1 %	2 位	1 位	
ピーマン	13,300 t	9.0 %	3 位	2 位	
さやいんげん	2,070 t	5.7 %	4 位	1 位	
さやえんどう	4,940 t	24.9 %	1 位	1 位	
そらまめ	3,300 t	23.7 %	1 位	1 位	
オクラ	5,210 t	43.4 %	1 位	1 位	令和2年産地域特産野菜 生産状況調査
みかん	11,400 t	1.5 %	14 位	5 位	令和3年産作物統計
びわ	189 t	7.5 %	3 位	2 位	令和4年産作物統計
マンゴー	404 t	11.5 %	3 位	2 位	令和元年産特産果樹 生産動態等調査
切り花類	132,700 千本	4.1 %	6 位	2 位	令和3年産 作物統計
球根類	16,500 千球	22.2 %	1 位	1 位	
肉用牛	337,800 頭	12.9 %	2 位	1 位	令和4年畜産統計
黒毛和種	321,000 頭	18.3 %	1 位	1 位	
乳用牛	13,100 頭	1.0 %	14 位	3 位	
豚	1,199,000 頭	13.4 %	1 位	1 位	
採卵鶏	11,731 千羽	6.5 %	3 位	1 位	
ブロイラー	28,090 千羽	20.2 %	1 位	1 位	

※茶（荒茶）、葉たばこは生産量、花きは出荷量

※「九州における地位」に沖縄県は含まない。

2 最近の情勢と今後の推進方向

(1) 米（多様なニーズに応える米づくり）

●最近の情勢（作付面積，収穫量）

- 令和4年産水稻（主食用，加工用，米粉用等）の作付面積は18,000haで，収穫量は86,000トンとなっています。そのうち主食用米の作付面積は16,600haで，稲作農家の減少や高齢化等により，年々，減少傾向にあります。
- 令和4年産の水稻の作柄は，作況指数98の「やや不良」，10a当たり単収は478kgでした。
- 品種別では，普通期水稻の「ヒノヒカリ」が最も多く，次いで「コシヒカリ」（早期），「あきほなみ」（普通期）となっています。あきほなみ（県北産）は，（一財）日本穀物検定協会が実施する「米の食味ランキング」において，平成25年産から8年連続で最高評価の「特A」を獲得するなど，高い評価を受けています。

●農業産出額

令和3年は176億円で，農業産出額全体の3.5%となっています。

●主要産地

早期水稻は県本土南部と熊毛地域，普通期水稻は県本土中北部地域となっています。

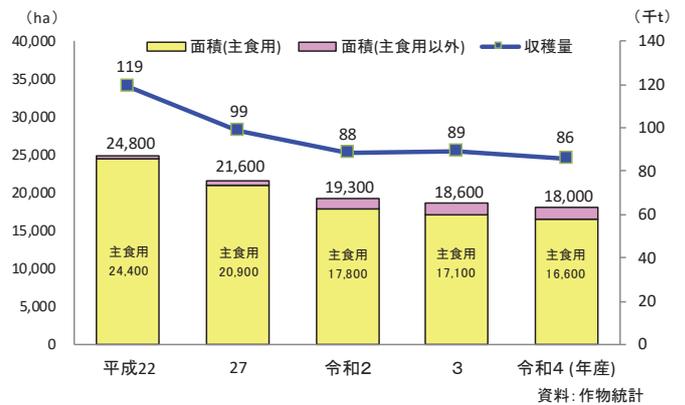
●今後の推進方向

県育成の収量・食味に優れた「あきほなみ」，「なつほのか」等の作付け拡大による売れる米づくりを推進するとともに，加工用米や飼料用米等の生産拡大，野菜等の高収益作物の導入・定着など水田のフル活用に努め，稲作農家の経営安定と生産性の高い水田農業の確立に取り組みます。

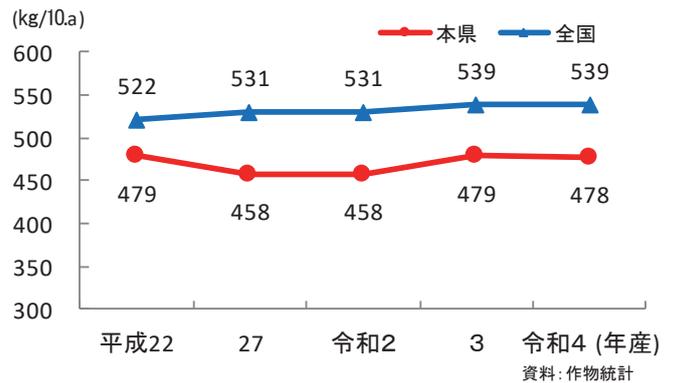


広がる水田地帯

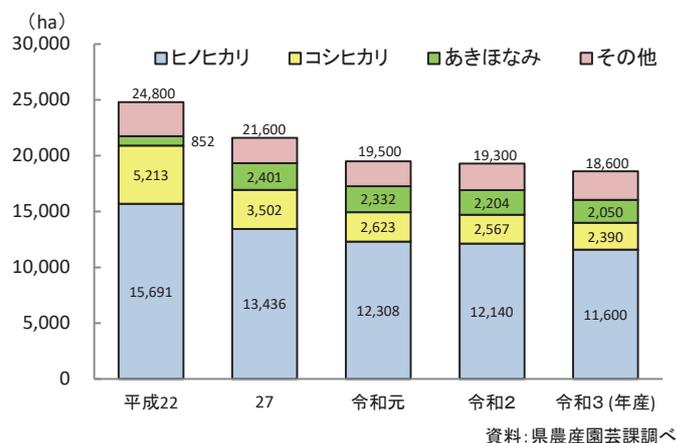
作付面積・収穫量の推移



10a 当たり収量の推移



品種別作付面積の推移



(2) さつまいも（用途別需要に応じた計画的な生産）

●最近の情勢（作付面積，生産量）

- ① 令和4年産の作付面積は10,000haで，全国（32,300ha）の31%を占め，全国第1位を誇っています。
- ② 令和4年産は，作付面積が減少したものの，病害の発生が少なかったこと等により，生産量は21万tと前年を上回り，また，10a当たりの収量は2,100kg（前年比114%）となりました。
- ③ さつまいもは，でん粉，焼酎，青果，食品加工用など幅広く利用されており，さつまいもの生産量のうち約5割が焼酎用，約4割がでん粉用に用いられています。

●農業産出額

令和3年は118億円で，農業産出額全体の2.4%となっています。

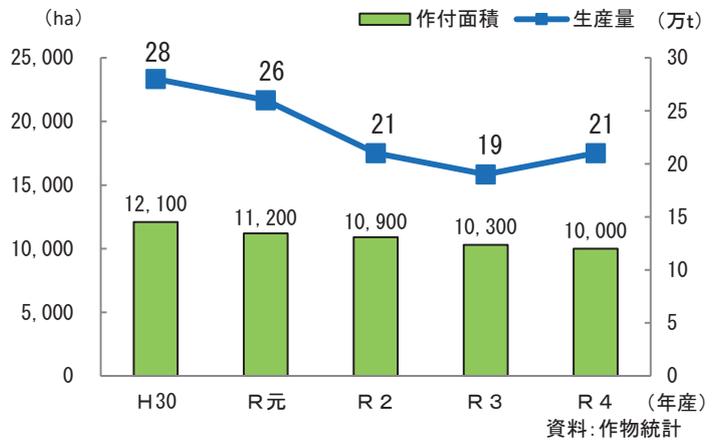
●主要産地

大隅地域，南薩地域，熊毛地域などとなっています。

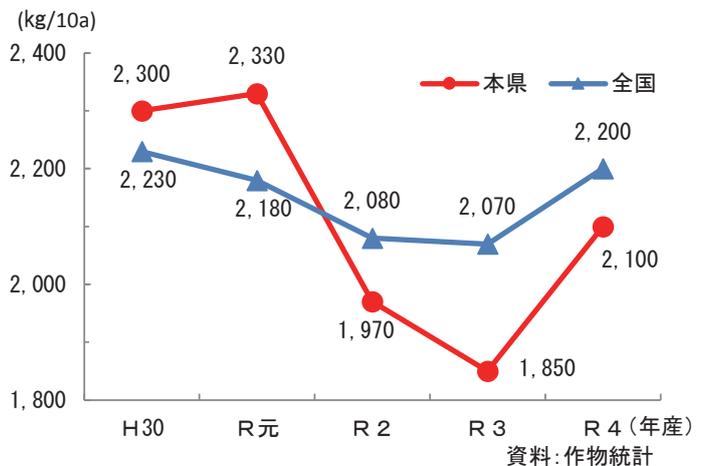
●今後の推進方向

用途別需要量に応じた計画的な生産を進めるとともに，「サツマイモ基腐病」対策の実施による単収向上や，省力機械の導入等による生産性向上を推進します。

作付面積・生産量の推移



10a当たり収量の推移



普通畑の約2割に作付けされるさつまいも

用途別の作付面積・生産量

	でん粉用		焼酎用		その他 (青果・食品加工用等)		計	
	面積	生産量	面積	生産量	面積	生産量	面積	生産量
	(単位: ha, t, %)							
R2	3,980	72,400	4,759	98,389	2,161	43,911	10,900	214,700
R3	4,110	73,600	4,380	91,115	1,810	25,885	10,300	190,600
(構成比)	(40)	(39)	(43)	(48)	(17)	(13)	(100)	(100)
R3/R2	103	102	92	93	84	59	94	89

資料：作物統計（焼酎用・その他は県農産園芸課調べ）

(3) 野菜（県全体に広がりのあるブランド産地の育成）

●最近の情勢（作付面積，生産量）

- ① 令和3年産の作付面積（ばれいしょ，青果用さつまいもを含む）は17,958haで，近年横ばいで推移しています。
- ② 令和3年産の生産量（ばれいしょ，青果用さつまいもを含む）は約445千トンで，近年横ばい傾向で推移しています。
- ③ 近年，野菜の消費形態は外食・中食による摂取が増加傾向にあり，加工・業務用の需要が増加しています（需要割合約6割）。

●農業産出額

令和3年（ばれいしょ，青果用さつまいもを含む）は約746億円で，農業産出額全体の14.9%となっています。

●今後の推進方向

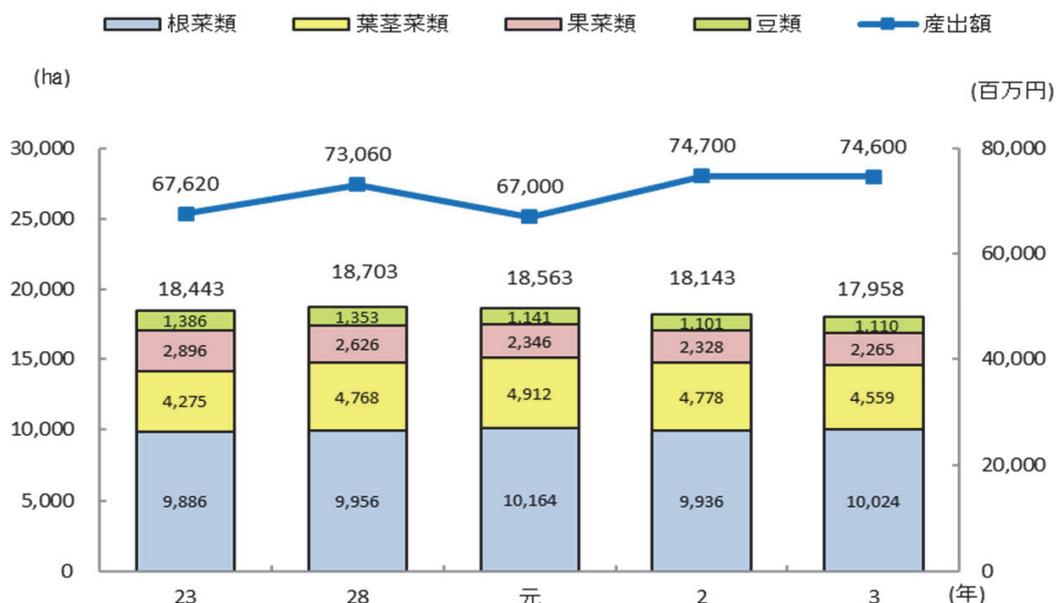
南北600kmにわたる地理的条件を生かし，安心・安全で環境との調和に配慮した野菜生産を基本に，重点品目を対象に施設化及び省力化の推進，集出荷施設等の整備を進め，高品質で安心・安全な野菜産地と加工・業務用需要に対応した野菜産地の育成に努めます。

品目別作付面積等（令和3年産）

品目名	作付面積 (ha)	生産量 (t)	全国に占める面積		主要産地
			割合 (%)	地位 (位)	
ばれいしょ	4,510	91,000	6.4	2	長島町，和泊町，知名町
だいこん	1,970	92,500	6.7	4	南九州市，鹿屋市，大崎町
キャベツ	1,860	68,600	5.4	5	指宿市，南九州市，志布志市
かぼちゃ	655	7,140	4.5	2	指宿市，垂水市，喜界町
にんじん	624	21,500	3.7	8	南九州市，志布志市，鹿屋市
ごぼう	578	6,820	7.8	3	鹿屋市，曾於市，大崎町
さといも	493	7,250	4.7	6	鹿屋市，曾於市，和泊町
ねぎ	459	6,790	2.1	18	南さつま市，伊佐市，鹿屋市
さやえんどう	426	4,940	15.5	1	垂水市，鹿屋市，鹿児島市
オクラ	415	5,106	-	-	指宿市，垂水市，南九州市
はくさい	401	23,900	2.4	10	曾於市，志布志市，霧島市
ブロッコリー	395	3,880	2.3	13	出水市，中種子町，鹿屋市
そらまめ	246	3,300	14.6	2	指宿市，出水市，枕崎市
レタス	232	6,300	1.2	16	指宿市，いちき串木野市，錦江町
さやいんげん	222	2,070	4.6	4	垂水市，錦江町，南大隅町

資料：「野菜生産出荷統計調査」，県農産園芸課調べ

作付面積・産出額の推移



資料：「野菜生産出荷統計調査」，県農産園芸課調べ，「生産農業所得統計」，平成29年以降の産出額は県農産園芸課推計

(4) 果樹（地域の特性を生かした果樹ブランド産地の育成）

●最近の情勢（栽培面積・生産量）

- ① 令和2年産の栽培面積は3,430haで、年々減少しています。
- ② 令和2年産の生産量は、37,983tとなっています。

●農業産出額

令和3年は105億円で、農業産出額全体の2.1%となっています

●今後の推進方向

適地適作を基本として、本県の優位性を発揮できるたんかん、大将季、紅甘夏、マンゴー、パッションフルーツ等の優良品目・品種への転換や、施設化の推進、園内作業道の整備、省力化機械の導入、高性能選果施設の整備、安心・安全な果実づくりの推進など、地域特性を生かした果樹ブランド産地の育成を図るとともに、果樹産地の構造改革を推進します



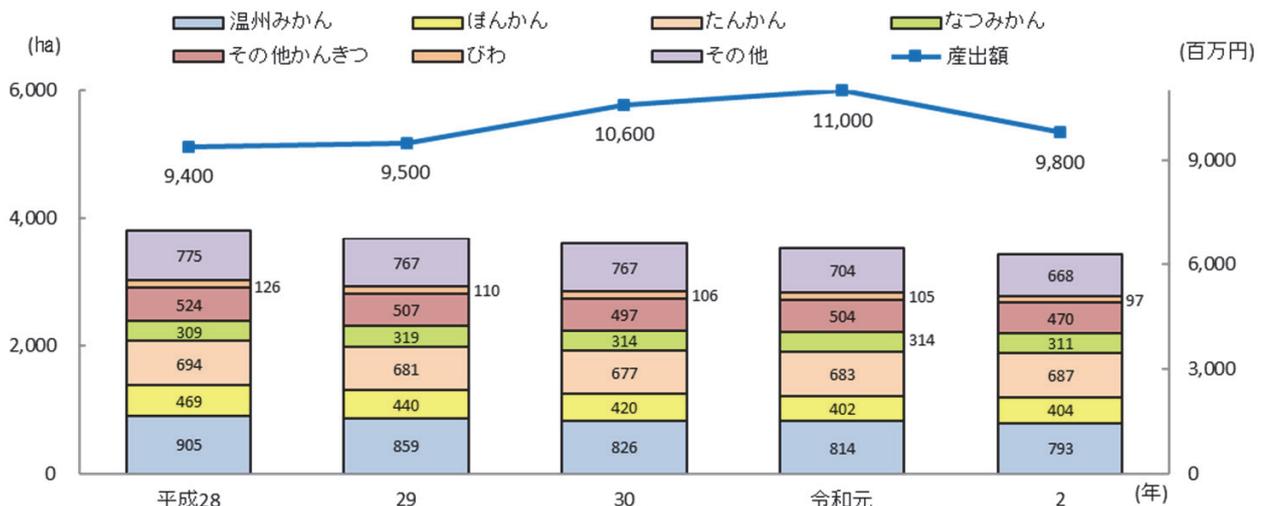
市場の期待が大きい「大将季」

品目別栽培面積等（令和2年産）

品目名	栽培面積 (ha)	生産量 (t)	主要産地
温州みかん	793	12,435	出水市, いちき田木野市, 霧島市
ぼんかん	404	2,609	いちき水原市, 新田町, 南さつま市
たんかん	687	3,309	屋久島町, 奄美市, 徳之島町
なつみかん	311	10,748	出水市, 長島町, 阿久根市
不知火 (大将季含む)	142	2,130	出水市, 長島町, 阿久根市
ぎんかん	51	848	南さつま市, 薩摩川内市, さつま町
びわ	97	237	鹿児島市, 垂水市, 長島町
すもも	71	29	指宿市, 鹿児島市, 大和村
ぶどう	66	677	霧島市, 薩摩川内, 出水市
マンゴー	63	372	大崎町, 指宿市, 和泊町
パッションフルーツ	36	329	奄美市, 瀬戸内町, 大崎町
県計	3,430	37,983	

資料:市町村報告

栽培面積・産出額の推移



資料:生産農業所得統計,市町村報告

(5) 花き（消費者ニーズに対応した花きブランド産地の育成）

●最近の情勢（作付面積）

① 令和3年産の花き（切花類、球根類、鉢物類、花き苗類、芝、地被植物類）の作付面積は1,052haで、年々減少しています。

このうち切花類は、475haで全体の45%を占めています。

② 本県は、全国有数の花き生産県であり、ソリダゴ、グラジオラス、レザーリーフファンは全国1位、観葉植物は全国2位、キクは全国4位の作付面積を誇っています。

●農業産出額

令和3年は118億円で、農業産出額全体の2.4%となっています。

●今後の推進方向

施設化・省力化による経営の安定化を図るとともに、キク類やテッポウユリ等に加え、需要の拡大が見込まれる収益性の高い品目・品種の導入を推進します。

また、「フラワーコンテスト」、「フラワーフェスタinかごしま」の開催や、「フラワーパークかごしま」における各種イベント等を通じて、県産花きの需要喚起と消費拡大に努めます。

品目別作付面積等（令和3年産）

品目名	栽培面積 (ha)	出荷量 (千本)	主要産地
キク	191	61,779	枕崎市, 和泊町, 鹿屋市
ユリ	27	5,346	和泊町, 知名町
観葉植物	44	1,688	指宿市, 鹿児島市, 出水市
ソリダゴ	35	17,410	和泊町, 知名町, 与論町
グラジオラス	37	3,787	和泊町, 知名町, 指宿市
レザーリーフファン	13	4,162	南種子町, 中種子町

資料：市町村報告

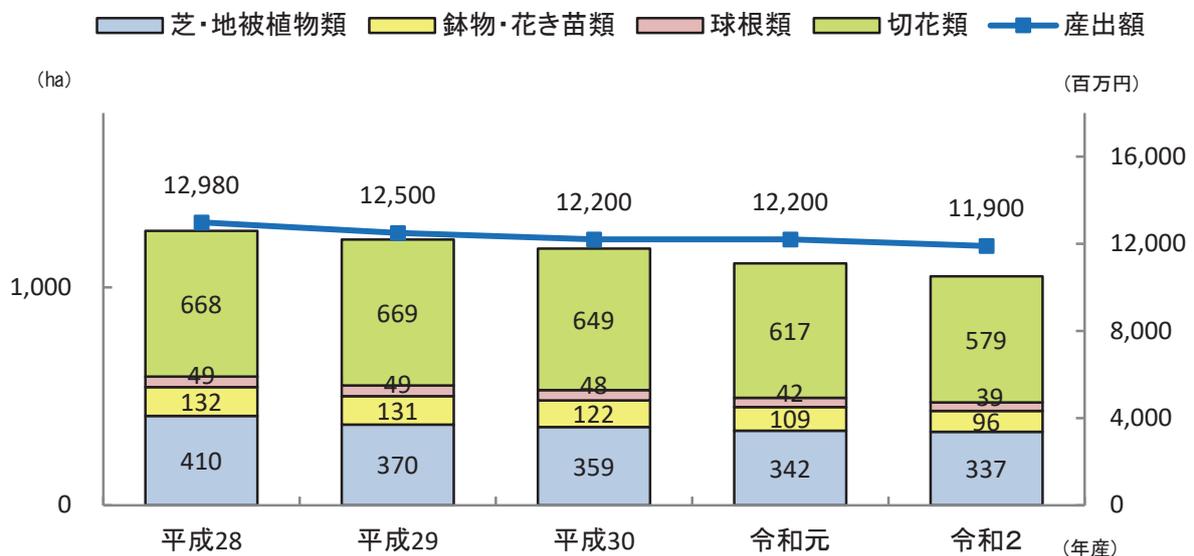


令和4年度鹿児島県フラワーコンテスト



フラワーフェスタ in かごしま2023

作付面積・産出額の推移



資料：花き生産出荷統計調査、花木等生産状況調査

(6) さとうきび（「さとうきび増産計画」の達成に向けた取組の推進）

●最近の情勢（収穫面積、生産量）

- ① 令和3年産の収穫面積は9,520haで、本県南西諸島の約6割の農家が生産している基幹作物となっています。
- ② 令和3年産は、台風等の大きな気象災害の影響も無かったことから、県全体の生産量は約54万t（前年比104%）と前年を上回り、また、10a当たりの収量も、5,710kg（前年比105%）となりました。
- ③ 鹿児島・沖縄両県の生産量は約136万tで、約4割が本県で生産されています。

●農業産出額

令和3年は130億円で、農業産出額全体の2.6%となっています。

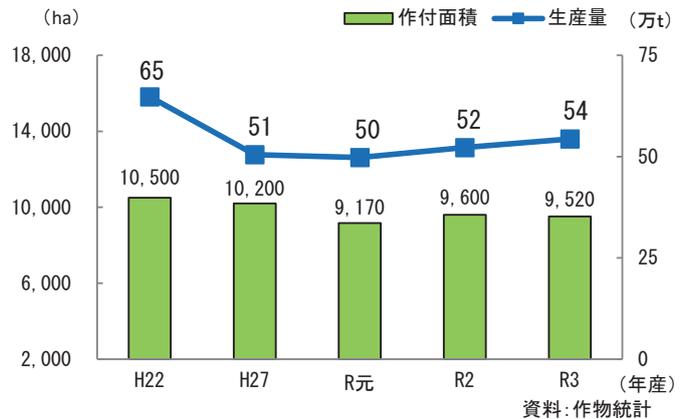
●主要産地

種子島、奄美地域となっています。製糖（分みつ糖）工場は、種子島に1工場（1社）、奄美地域の5島に6工場（5社）あり、さとうきび生産量の99%が分みつ糖用に利用されています。

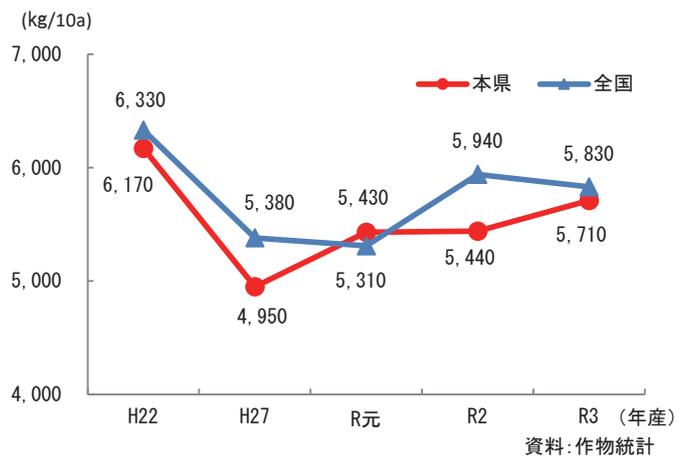
●今後の推進方向

さとうきびの収穫面積の確保や単収向上などを図るため、農作業受託組織等の育成や、堆肥投入等による土づくり、優良品種の育成・普及などに取り組めます。

作付面積・生産量の推移



10a 当たり収量の推移



小型ハーベスタによる収穫



けん引式中耕機（スクープ）による作業の効率化（中耕ロータリ作業時間と比較し、1/4に短縮）

(7) 茶（強みやポテンシャルを生かした「儲かる茶業経営」の実現）

●最近の情勢（栽培面積、生産量）

- ① 令和4年産の栽培面積は8,250haで、全国的に減少する中、本県においてはほぼ横ばいで推移しています。
- ② 令和4年産の荒茶生産量は26,700tとなり、全国シェアの約35%を占める全国第2位の茶産地となっています。
- ③ 全国茶品評会において、19年連続の「産地賞」や、「農林水産大臣賞」を受賞するなど、品質もトップレベルにあります。
- ④ 抹茶の原料となるてん茶やドリンク原料茶など、需要に対応した茶づくりが進んでいます。また、多様な品種が栽培されています。
- ⑤ 令和3年度の有機栽培茶面積は、698ha（うち有機JAS認証577.9ha）であり、有機JAS認証面積は、全国一を誇っています。

●農業産出額

令和3年は239億円で、農業産出額全体の4.8%となっています（静岡県：268億円）。

●主要産地

茶は、県内各地で栽培されており、温暖早場地帯、畑作平坦地帯、山麓傾斜地帯など、立地条件を生かした特色ある茶づくりが進んでいます。

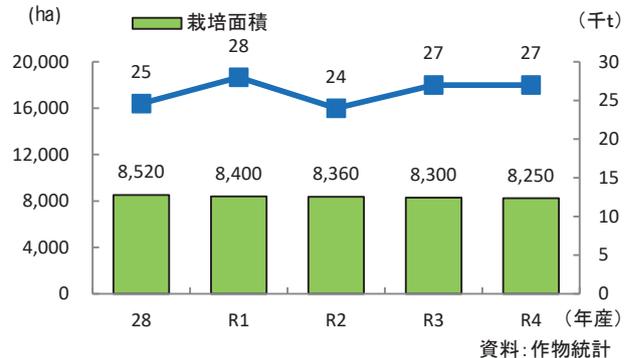
●輸出状況

本県の茶の輸出額は、米国、EU、台湾を中心に、令和3年度で約11.4億円（前年比149%）、輸出量は605.2トン（前年比159%）となっており、着実に伸びています。

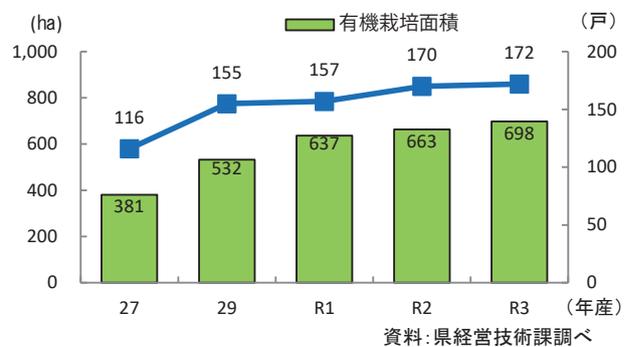
●今後の推進方向

大型管理機械の導入による高い生産性、海外輸出に向けた有機JAS認証取得の推進や抹茶加工施設の整備支援など、本県茶業が有する強みやポテンシャルを生かし、生産体制の強化、ニーズに対応した茶づくり等による付加価値向上や更なる消費拡大など、「儲かる茶業経営」の実現に向けた取組を進めます。

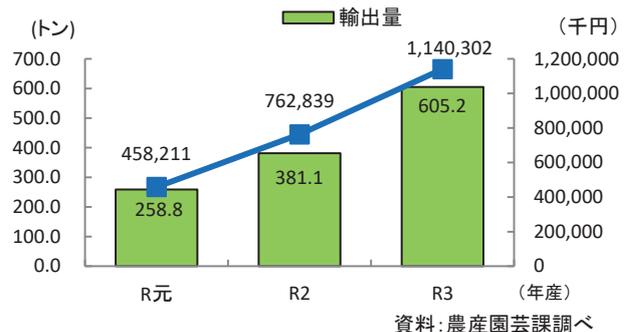
栽培面積・荒茶生産量の推移



茶の有機栽培面積・農家戸数の推移



茶の輸出額・輸出量の推移



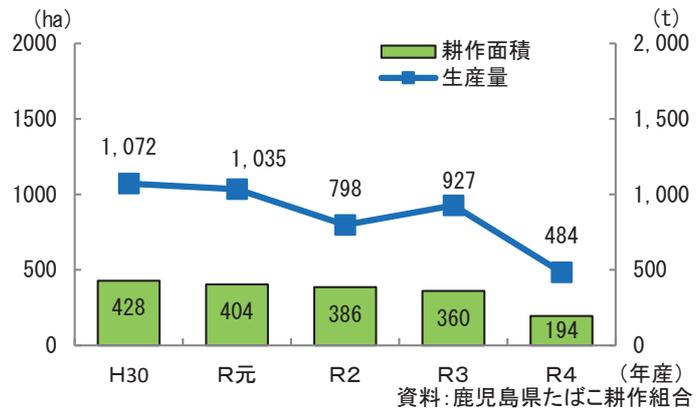
大規模で効率的な生産が進む本県茶業

(8) 葉たばこ（低コストで高品質な葉たばこづくり）

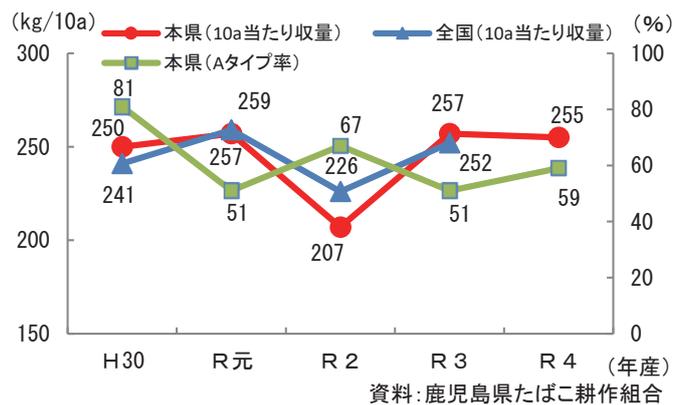
●最近の情勢（耕作面積、生産量）

- ① 令和4年産の耕作面積は、JTによる廃作募集もあり、194haと前年に比べて46%減少しました。また、1戸当たりの耕作面積は、2.06haで10年前（1.82ha）の1.1倍に拡大しています。
- ② 令和4年産は、一部の地区で病害の発生がみられたことから、生産量は484t、10a当たり収量は250kg（前年比97%）と前年を下回ったものの、生育期の天候が良かったこともあり、Aタイプ率は、59%（前年比115%）となりました。

耕作面積・生産量の推移



10a当たり収量・Aタイプ率の推移



●農業産出額

令和3年は18億円で、全国第7位となっています。

●主要産地

南薩地域、北薩地域、大隅地域、種子島、沖永良部島などです。

●今後の推進方向

担い手の育成や、高単収・高品質な葉たばこ生産の推進など、関係機関・団体と一体となって取り組みます。



高単収・高品質な葉たばこ生産



葉たばこの乾燥作業

(9) 肉用牛（生産基盤の維持拡大による安定供給）

●最近の情勢（飼養頭数・戸数、出荷頭数）

- 令和4年の飼養頭数は、337,800頭で、全国の12.9%を占めています。また、肉用牛の中でも肉質の優れた黒毛和種の飼養頭数は、321,000頭で、全国第1位となっています。
- 令和4年の飼養戸数は、6,690戸（対前年比95.2%）となっています。
- 令和4年の子牛の出荷頭数は、91,910頭となっています。

●農業産出額

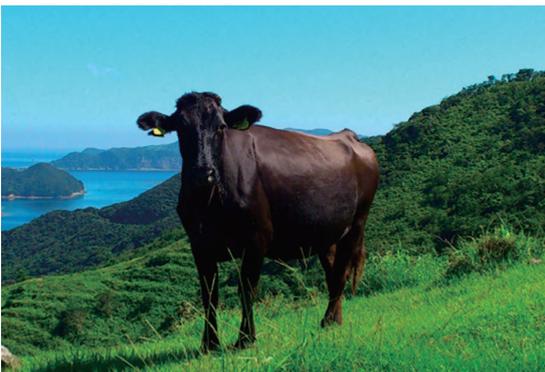
令和3年は1,240億円（対前年比107.7%）で、農業産出額全体の24.8%となっています。

●主要産地

肉用牛は、県内各地で飼育され、主要産地は、大隅地域、大島地域などとなっています。

●今後の推進方向

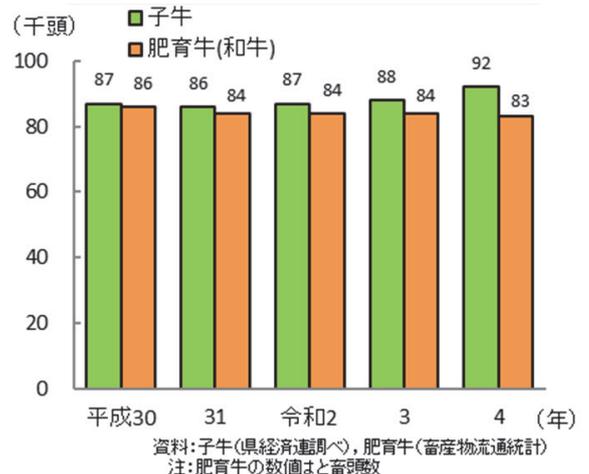
- 肉用牛の生産基盤の維持・拡大を図るため、関係機関・団体からなる「肉用牛振興協議会」が中心となり、統一した指導体制のもと、担い手となる経営体の育成や、畜舎等の整備、自給飼料の増産を支援することにより、段階的な規模拡大を推進します。
- 専業農家の更なる規模拡大と小規模・高齢農家の経営継続を図るため、ヘルパーやコントラクター等の支援組織の利用やICT等を活用した飼養管理作業等の分業化・省力化を推進します。
- 遺伝子解析等の手法を活用した優良種雄牛の造成等や、これらの遺伝的能力に対応した飼養管理技術の開発を推進します。
- 第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会の成果を踏まえ「和牛日本一」を前面に打ち出し、「鹿児島黒牛」のPRとブランド力の強化を図ります。



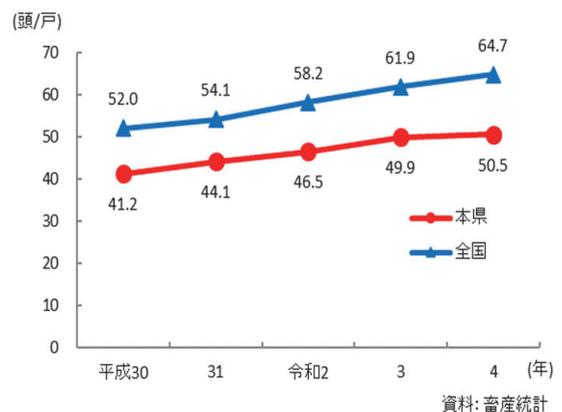
雄大な自然に育まれた「鹿児島黒牛」



出荷頭数【子牛、肥育牛（和牛）】の推移



1戸当たり飼養頭数の推移



(10) 乳用牛（高品質な生乳の安定供給）

●最近の情勢（飼養頭数・戸数、生乳生産量）

- ① 令和4年の飼養頭数は13,100頭（対前年比97.0%）で、減少傾向で推移しています。
- ② 令和4年の飼養戸数は147戸で、減少傾向で推移しています。
- ③ 令和4年の1戸当たりの飼養頭数は89.1頭で、多頭化が進んでいます。
- ④ 令和4年の生乳生産量は76,698 tとなっています。

また、令和4年の用途別処理量は、飲用向け71.2%、乳製品向け28.7%となっています。

●農業産出額

令和3年は103億円（対前年比97.2%）で、農業産出額全体の2.1%となっています。

●主要産地

大隅地域、熊毛地域、南薩地域などとなっています。

●今後の推進方向

- ① 需要に見合った計画生産を基本として、酪農経営の安定向上を図ります。また、乳用牛群検定による個体管理、性判別精液や受精卵移植技術等の活用による優良後継牛の確保、搾乳牛の増頭、夏季需要期の生乳生産の促進及び供用年数の延長による生涯生乳生産量の向上を推進します。
- ② 酪農ヘルパーやコントラクター等の支援組織の利用や、育成預託の推進、ICT技術の活用等による飼養管理作業等の分業化・省力化を推進します。

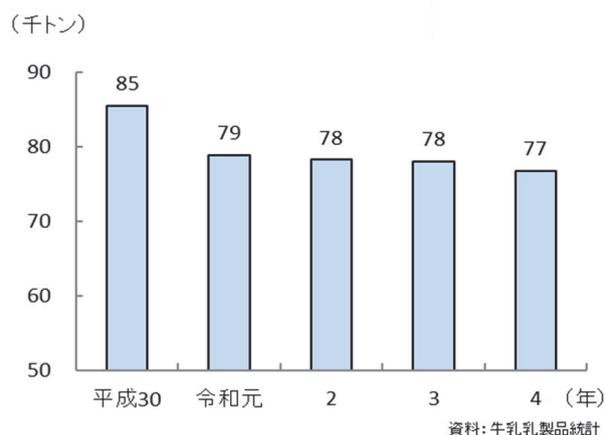


放牧で育成された乳用牛

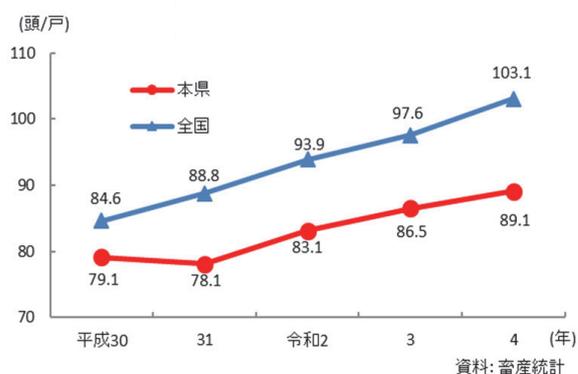
飼養羽数・飼養戸数の推移



生乳生産量の推移



1戸当たり飼養頭数の推移



(11) 豚（高品質な豚肉の安定供給）

●最近の情勢（飼養頭数・戸数、出荷頭数）

- ① 令和4年の飼養頭数は120万頭（対前年比97.2%）で、全国第1位となっています。
- ② 令和4年の飼養戸数は452戸で、年々減少しています。
- ③ 令和3年の県内の肉豚出荷頭数（と畜頭数）は、276万頭（対前年比99.4%）で全国第1位となっており、うち黒豚は30万頭となっています。

●農業産出額

令和3年は900億円（対前年105.1%）で、農業産出額全体の18.0%となっています。

●主要産地

養豚団地は、各地に形成されていますが、主要産地は、大隅地域などとなっています。

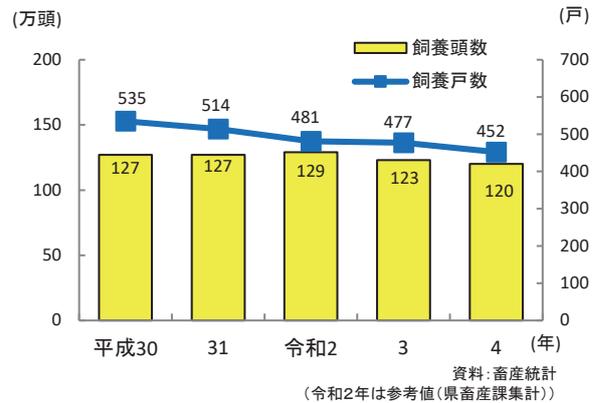
●今後の推進方向

- ① 競争力のある経営体の育成と高品質な豚肉の低コスト生産を推進するため、かごしま黒豚の種豚の改良や飼養管理施設等の整備を進めるとともに、飼養衛生管理技術の向上に努めます。
- ② 「かごしま黒豚」の一層の銘柄化を図るため、系統豚「ニューサツマ」、「サツマ2001」、「クロサツマ2015」の利用を推進するとともに、第5系統豚の造成に向けた取組を進めます。

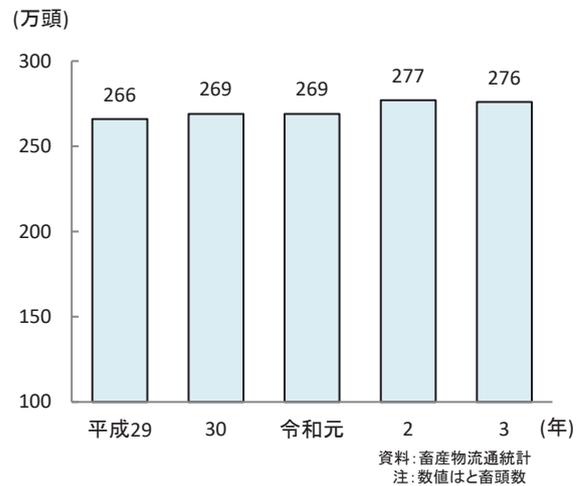


第4系統豚「クロサツマ2015」
（平成27年11月認定）

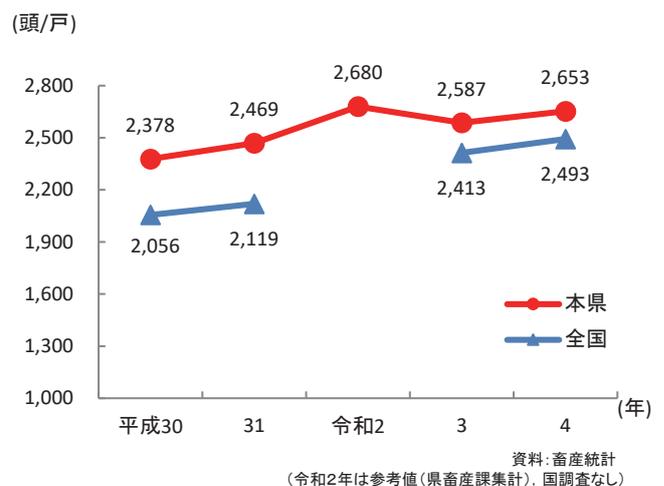
飼養頭数・飼養戸数の推移



出荷頭数の推移



1戸当たり飼養頭数の推移



(12) 採卵鶏（安全で新鮮な鶏卵の安定供給）

●最近の情勢（飼養羽数・戸数, 鶏卵生産数量）

- ① 令和4年の飼養羽数は11,731千羽（対前年比97.7%）となっています。
- ② 令和4年の飼養戸数は103戸となっています。
- ③ 令和3年の鶏卵生産数量は183,220t（対前年比96.4%）で、全国第2位となっています。

●農業産出額

令和3年は316億円（対前年比115.8%）で、農業産出額全体の6.3%となっています。

●主要産地

主要産地は、大隅地域、北薩地域、南薩地域などとなっています。

●今後の推進方向

安全・安心、高品質な鶏卵の低コスト生産や飼養衛生管理技術の向上、生産性の高い鶏舎や鶏卵処理施設等の整備を推進します。

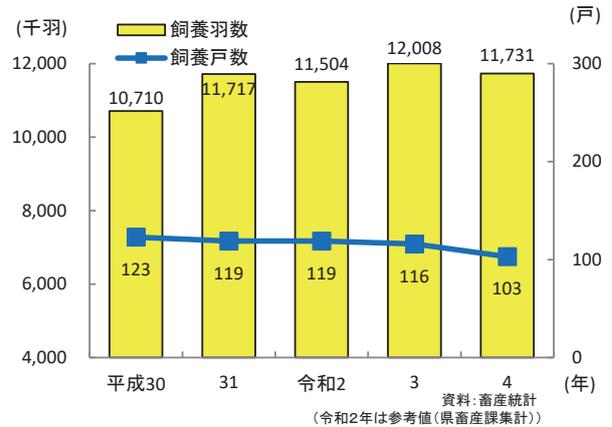


安全で高品質な鶏卵の生産

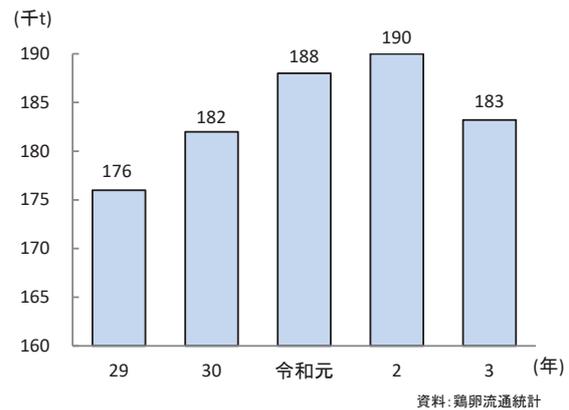


鶏卵処理施設

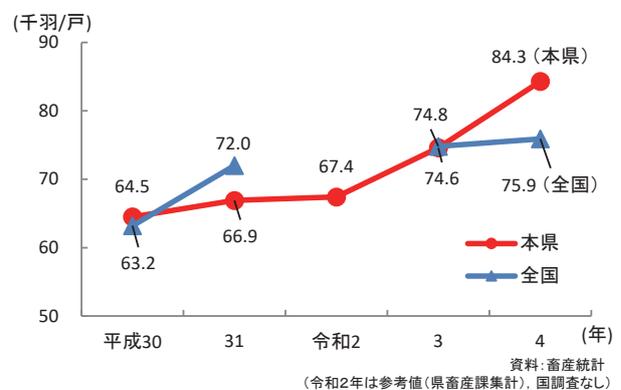
飼養羽数・飼養戸数の推移



生産数量の推移



1戸当たり成鶏めす飼育羽数の推移



(13) 肉用鶏（消費者ニーズに対応した鶏肉の安定供給）

●最近の情勢（飼養羽数・戸数，出荷羽数）

- ① 令和4年の飼養羽数は28,090千羽（対前年比103.7%）となっています。
- ② 令和4年の飼養戸数は378戸となっています。
- ③ 令和3年の出荷羽数は144,326千羽（対前年比102.3%）で、全国第1位となっています。

●農業産出額

令和3年は736億円（対前年比105.3%）で、農業産出額全体の14.7%となっています。

●主要産地

主要産地は、大隅地域などとなっています。

●今後の推進方向

安全・安心、高品質な鶏肉生産や飼養衛生管理技術の向上を推進するとともに、県が開発した「かごしま地鶏」（「さつま若しゃも」、「さつま地鶏」、「黒さつま鶏」）のブランド力向上を図るため、飼料用米給与体系を取り入れた飼養マニュアルの活用による肉質向上や県産地鶏の認知度向上に向けた取組を推進します。



さつま地鶏 商標

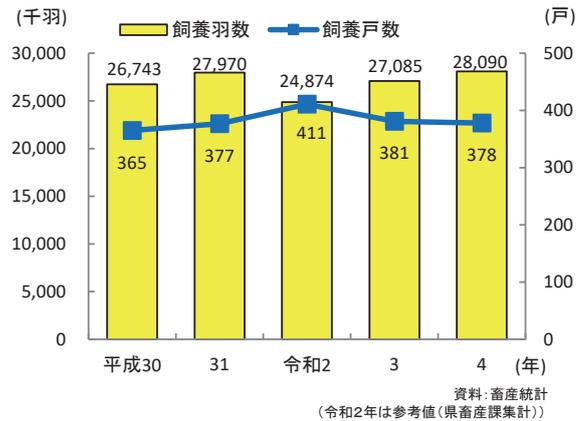


黒さつま鶏 商標

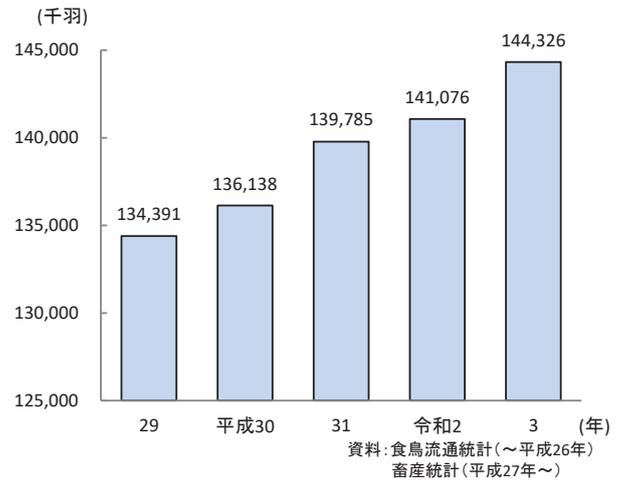


黒さつま鶏

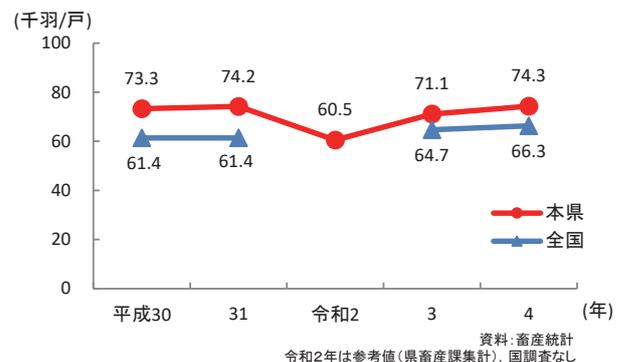
飼養羽数・飼養戸数の推移



出荷羽数の推移



1戸当たり飼養羽数の推移



V 作物カレンダー

作物	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	主な産地
水稲	早期		播種	田植				収穫					熊本, 薩摩半島中南部, 大隅半島南部
	普通期					播種	田植				収穫		県本土
大豆							播種				収穫		県本土
さつまいも (青果用)	超早期	植付					収穫					植付	南薩
	早期		植付				収穫						南薩
	普通期			植付				収穫					熊本, 大隅, 南薩
	晩期				植付				収穫				
さとうきび	春植	植付										収穫	種子島, 奄美地域
	夏植							植付				収穫	
	秋植											収穫	
茶				一番茶	二番茶	三番茶	四番茶					秋冬番茶	県本土, 熊本, 徳之島
菜たばこ	播種	植替	植付			収穫							南薩, 北薩, 大隅, 種子島, 沖永良部島
だいこん	春まき	播種				収穫							肝属, 始良, 曾於
	夏まき							播種		収穫			始良
	秋まき									播種		収穫	曾於, 南薩, 肝属
	冬まき	播種									播種	収穫	曾於, 肝属, 南薩, 始良
さといも	早期	植付						収穫				植付	曾於
	普通			植付								収穫	沖永良部島, 与論島
ばれいしょ	早期											植付	出水, 沖永良部島, 徳之島, 種子島, 肝属
	春作		植付					収穫					出水
	秋作								植付			収穫	出水
	加工			植付								収穫	出水, 肝属, 曾於
根深ねぎ	春まき	収穫		播種								収穫	肝属, 南薩, 伊佐
	夏まき							播種				収穫	南薩, 伊佐, 始良
	秋まき			収穫						植付		収穫	南薩, 始良, 日置
	冬まき										播種	植付	伊佐, 始良
キャベツ	夏まき	収穫								播種		植付	指宿, 南薩, 曾於
	秋まき										播種	植付	指宿, 肝属, 曾於
	冬まき											播種	植付

作物		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	主な産地
はくさい	普通								播種					曾於, 肝属
	冬まき	播種	植付	収穫							植付		収穫	始良
フロッコリー	夏まき		収穫						播種	植付			収穫	肝属, 始良
	秋まき									播種		植付	収穫	種子島, 出水, 肝属, 喜界島
にんじん	普通			収穫						播種			収穫	肝属
	秋まき										播種		収穫	南薩, 指宿, 肝属, 曾於
ごぼう	普通掘	夏まき		播種									収穫	曾於, 肝属
		秋まき											播種	肝属
	新掘	夏まき		収穫									播種	肝属, 曾於, 川薩, 伊佐, 始良
		秋まき				収穫							播種	曾於
かぼちゃ	普通掘	夏まき		播種									収穫	曾於, 肝属
		秋まき											播種	肝属, 曾於, 川薩, 伊佐, 始良
		冬まき											播種	曾於
きゅうり	普通掘	夏まき											播種	南薩, 伊佐, 曾於, 肝属
		秋まき											播種	指宿, 鹿兒島, 伊佐, 大島, 出水
		冬まき											播種	指宿, 南薩, 肝属, 曾於
さやえんどう	普通掘	夏まき											播種	肝属, 曾於
		秋まき											播種	肝属
		冬まき											播種	始良
		春まき											播種	曾於
さやいんげん	普通掘	夏まき											播種	指宿, 出水, 南薩
		秋まき											播種	指宿, 肝属, 種子島
		冬まき											播種	肝属
		春まき											播種	肝属, 沖永良部島
ピーマン	普通掘	夏まき											播種	肝属
		秋まき											播種	肝属, 与論島
		冬まき											播種	肝属
		春まき											播種	肝属
オクラ	普通掘	夏まき											播種	指宿, 南薩, 肝属
		秋まき											播種	出水, 南薩, 肝属
いちご	普通掘	夏まき											播種	南薩, 肝属
		秋まき											播種	曾於
みかん	普通掘	夏まき											播種	南薩, 曾於, 川薩
		秋まき											播種	指宿, 南薩
紅甘夏	普通掘	夏まき											播種	鹿兒島, 出水
		秋まき											播種	指宿, 肝属, 出水
ほんかん	普通掘	夏まき											播種	曾於, 日置, 川薩, 出水, 始良, 肝属, 南薩
		秋まき											播種	曾於, 出水, 日置
ほうかん	普通掘	夏まき											播種	出水
		秋まき											播種	屋久島, 種子島, 大隅, 南薩

作物	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	主な産地		
たんかん		収穫		開花									屋久島、大島、南薩、種子島		
大(火)将(一)知(季)	収穫		開花									収穫	出水、日置、曾於 出水、南薩、日置		
きんかん	収穫				開花							収穫	川薩、南薩 南薩、川薩		
びわ	袋かけ	収穫			開花							開花	大隅、鹿児島 鹿児島、大隅、出水		
紀州みかん(小みかん)	収穫			開花								収穫	鹿児島、始良		
マンゴー	開花				収穫							開花	曾於、指宿、大隅 奄美全域、熊本全域		
辺塚だいだい				開花								収穫	大隅		
ハッシュョウ			開花		収穫								曾於、指宿、大隅 大島全域、熊本全域		
キク	輪ギク	12月							定植	電照			収穫	南薩、大隅、指宿、曾於	
		3月		収穫								定植	電照		
	8月				定植	電照		収穫							
	9月				定植	電照		収穫							
スフレギク	12月								定植	電照			収穫	南薩、指宿、大隅、曾於、 沖永良部島	
	3月		収穫									定植	電照		
ソリダゴ	10・1・5月出荷	11・3・6月出荷	電照		電照	収穫			定植	電照	収穫	電照	電照	日置、沖永良部島、与論島	
		12・4・7月出荷	電照	収穫	電照	収穫	定植	挿心	電照	収穫	電照	電照	電照		
		8・11・3月出荷	電照	収穫	定植	挿心	電照	収穫	電照	電照	電照	電照	電照		電照
		電照	収穫	定植	挿心	電照	収穫	電照	電照	電照	電照	電照	電照		電照
テッポウユリ	超促成								定植	電照		収穫	沖永良部島、南薩、大隅		
	促成								定植	電照		収穫			
	半促成	収穫	収穫						定植	電照		収穫			
レーザーファン									定植			定植	種子島		

リレー出荷体制の確立

本県では、南北600kmの地理的条件を生かし、特産野菜のリレー出荷を行っています。

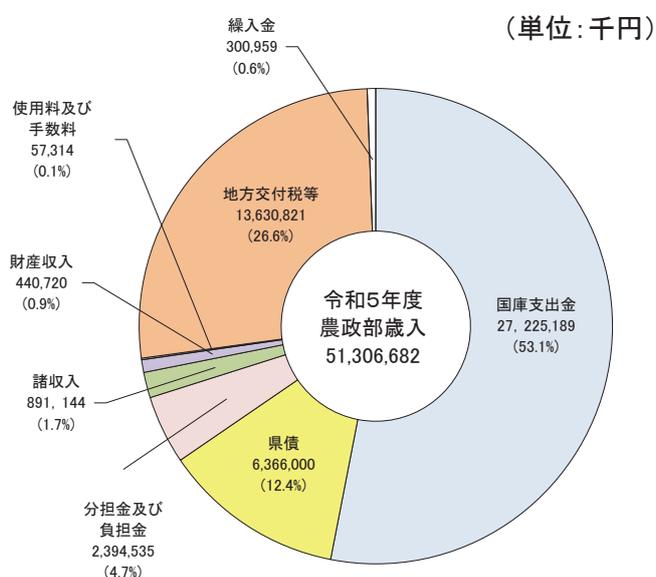
主な品目	作型	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
ばれいしょ	早掘 ～ 春作												
さといも	早掘												曾於
	普通												
そらまめ	冬どり												
	普通												

VI 農政の推進体制

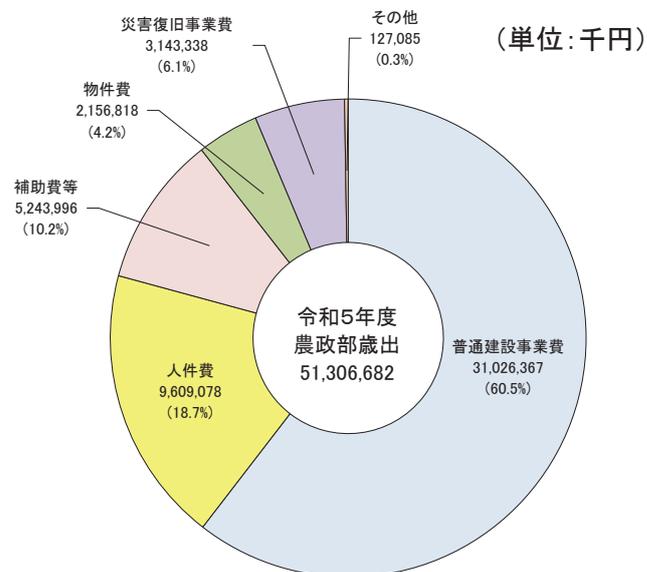
1 農政部予算総括

区 分			令和5年度 当初（千円）	令和4年度 当初（千円）	伸び率（%） （R5/R4）
一 般 会 計	農 林 水 産 業 費	農 業 費	14,644,003	14,627,552	100.1
		畜 産 業 費	9,211,922	7,526,127	122.4
		農 地 費	24,192,457	24,146,908	100.2
		小 計	48,048,382	46,300,587	103.8
	災 害 復 旧 費	3,258,300	4,375,757	74.5	
	計	51,306,682	50,676,344	101.2	
	うち 公 共 事 業	24,348,603	24,358,603	100.0	
うち 県 単 公 共 事 業	322,479	371,479	86.8		
特 別 会 計	就 農 支 援 資 金 貸 付 事 業	50,427	60,131	83.9	
合 計			51,357,109	50,736,475	101.2

令和5年度農政部歳入
(一般会計)

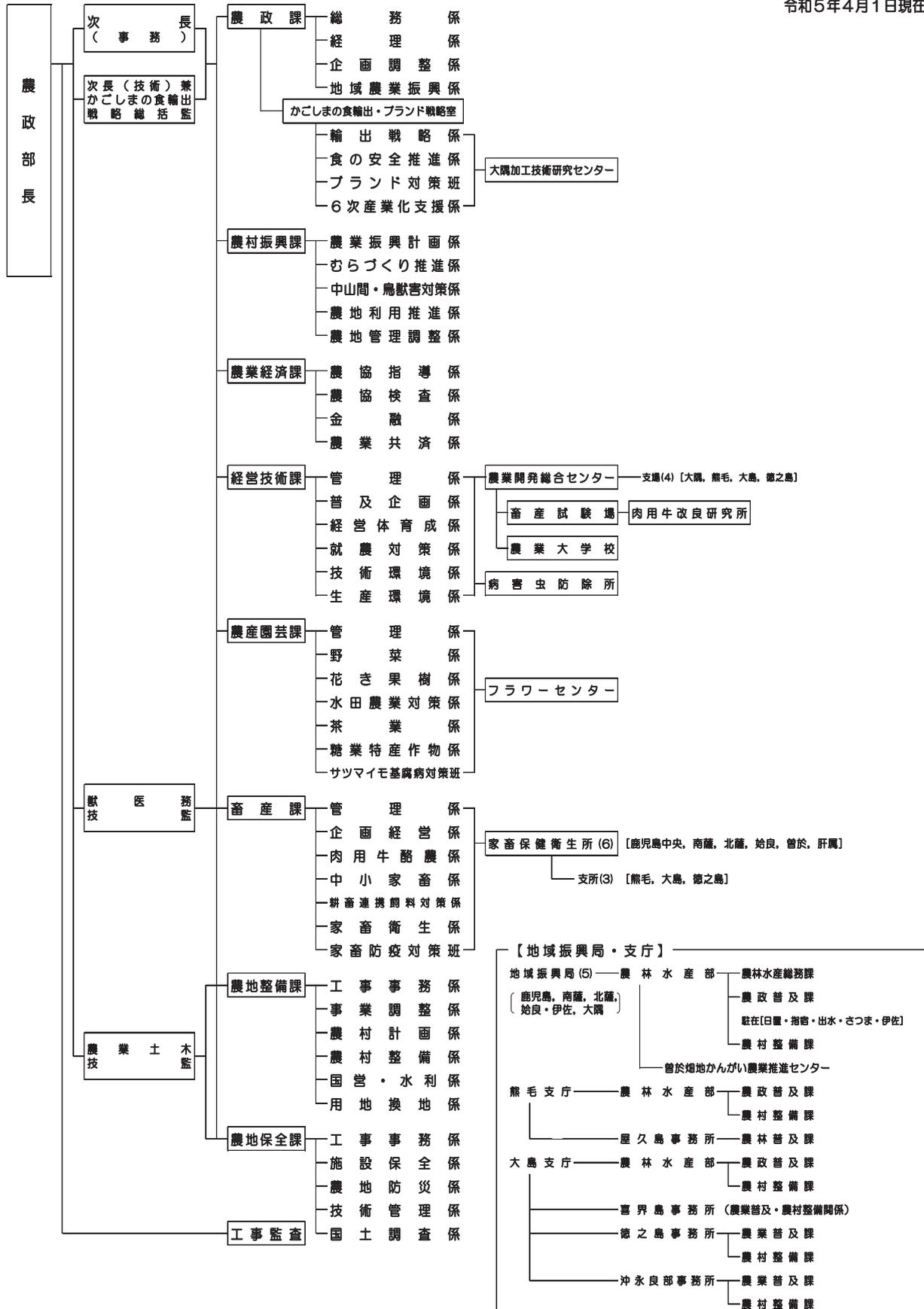


令和5年度農政部歳出
(一般会計)



2 農政部機構図

令和5年4月1日現在



技術を生み出し、
人を育てる

大隅加工技術研究センター

(平成27年4月開設)

県産農産物の付加価値向上に向けて、品質の維持・向上を図る保蔵・流通技術や素材の特長を生かした加工技術の開発に取り組んでいるほか、施設の開放により食品加工事業者等が自ら行う加工品の開発支援等を行っています。

アクセス



- 鹿児島市内から桜島フェリーまたは鴨池フェリー経由、車で約100分
- 鹿児島市内から九州縦貫自動車道・東九州自動車道・大隅縦貫道細山田IC経由、車で約90分
- 鹿児島空港から九州縦貫自動車道・東九州自動車道・大隅縦貫道細山田IC経由、車で約75分
- 志布志港から大崎町経由、車で約55分



お問い合わせ

〒893-1601
鹿児島市串良町細山田4938番地
TEL 0994-31-0311
FAX 0994-31-0319
URL <http://www.oosumi-kakou.com/>
E-mail kagiken@pref.kagoshima.lg.jp

ゆっくり楽しむ花の国
花・風・光の自然浴

フラワーパークかごしま

東には、錦江湾のきらきら光る海。西には、美しい姿でそびえる開聞岳。太陽の光とさわやかな潮風の香につつまれた日本最大級の花の楽園です。

(平成8年5月オープン)

県民が花と緑に親しむ憩いの場として、また、花の生産と観光の振興に寄与する施設として四季折々の花が楽しめます。

場所



お問い合わせ

〒891-0513
指宿市山川岡尻ケ水1611番地
TEL 0993-35-3333
FAX 0994-35-3555
URL <http://www.fp-k.org/>



令和5年3月発行

■編集発行 鹿児島県農政部農政課
鹿児島市鴨池新町10番1号
電話 099-286-3091 FAX 099-286-5587
URL <http://www.pref.kagoshima.jp/>